arcserve

Rev:4.0

Arcserve Unified Data Protection 10.x Agent for Windows 環境構築ガイド インストール～ベアメタル復旧編

はじめに 1

1. インストール 2

1.1 インストール 2
1.2 バージョンの確認 9
1.3 ライセンス キーの登録 10
1.4 修正ファイルの適用 10
1.5 UDP 10.0/10.1 脆弱性対応について 11
1.6 オフライン環境での UDP 10.3 へのバージョン アップ 12

2. バックアップ運用の開始 15

2.1 バックアップ設定 15

3. バックアップ スケジュールの設定例 25

3.1 バックアップ スケジュールの設定例 26

4. バックアップ 設定のエクスポートとインポート 28

4.1 バックアップ 設定のエクスポート 28
4.2 バックアップ 設定のインポート 30

5. ベアメタル復旧 32

5.1 復旧用メディアの作成 33
5.2 ベアメタル復旧の実行 46

6. 製品情報と無償トレーニング情報 55

6.1 製品情報および FAQ はこちら 55
6.2 トレーニング情報 55

改定履歴

2024 年 11 月 Rev 1.0 リリース

2025 年 03 月 Rev 1.1 リリース

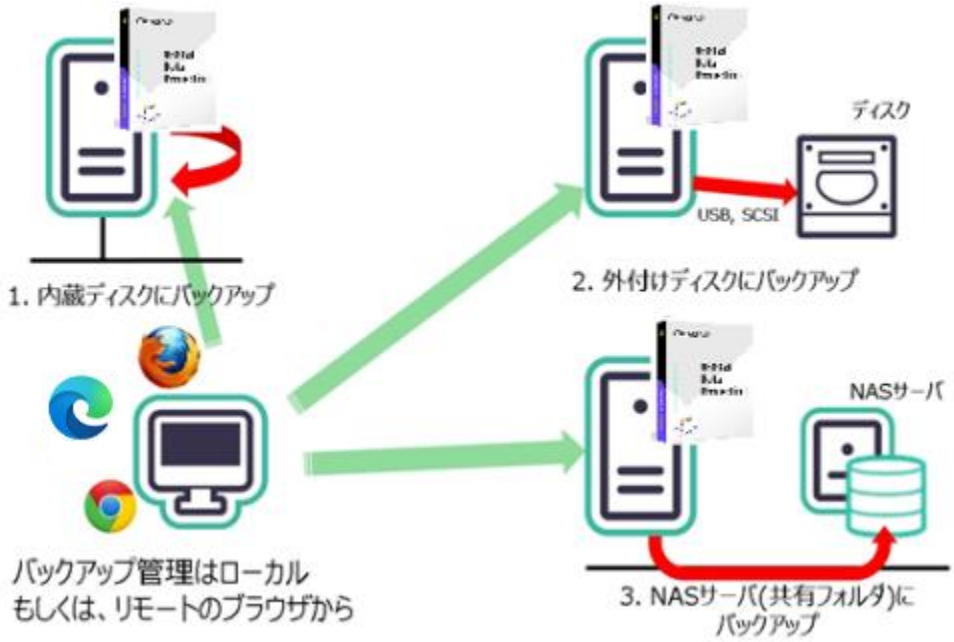
2025 年 05 月 Rev 2.0 リリース Arcserve UDP 10.1 対応

2025 年 10 月 Rev 3.0 リリース Arcserve UDP 10.2 対応

2025 年 12 月 Rev 4.0 リリース Arcserve UDP 10.3 対応

はじめに

Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) Agent は、小中規模なコンピューティング環境のデータ保護ニーズに焦点を合わせた非常に「簡単」かつ「手頃」なディスクベースのシステム保護ソリューションです。
導入から運用を開始するまで、ほんのわずかな時間と設定で済むだけでなく、一度運用を始めるとほとんど専門知識や手間をかける必要がないため、バックアップ運用管理者の手薄な地方拠点や小規模な部門でも安心してお使いいただくことができます。本ガイドでは、サーバ管理やバックアップ運用経験の少ない方でも、簡単に UDP Agent の環境構築を行っていただけるよう、ステップバイステップでインストールからベアメタル復旧までの手順を説明しています。



UDP Agent は保護対象のマシンに直接インストールする製品です。バックアップ先のディスクには内蔵・外付けのディスクの他、NAS などリモートの共有フォルダを使用できます。共有フォルダを使用する構成では、保護対象サーバからみて Windows の共有フォルダとしてアクセスできるのであれば、デバイスの形式は問いません。
内蔵ディスクが 1 本しかない構成や、サーバ内にバックアップのための容量を確保できない構成では、NAS などのリモートの共有フォルダをバックアップ先に使用する運用が効果的です。管理 GUI は WEB 形式なので、ブラウザが使用できる環境ならば、保護したいサーバにアクセスするだけでバックアップ状況を確認することができます。

台数が多い環境では「Arcserve UDP コンソール（以下『UDP 管理コンソール』と表記）」からすべてのサーバを一元管理する運用もできます。バックアップ対象ノードに UDP Agent をリモートでインストールや、バックアップの設定（プラン）を一斉に配信することもできます。

UDP 管理コンソール利用時は、バックアップ先として「復旧ポイントサーバ」も利用できます。これにより、バックアップデータの重複排除や、遠隔地への転送機能が提供されます。また、負荷のかかるマージやカタログ作成処理を UDP Agent に代わって復旧ポイントサーバ側で実行することができるため、保護対象サーバやネットワークへの負荷を低減できます。
UDP 管理コンソールや復旧ポイントサーバの導入については、下記の環境構築ガイドをご参照ください。
https://www.arcserve.com/sites/default/files/2024-10/udp-10x-console-install-guide.pdf

1. インストール

ご使用の環境により一部手順が異なる場合がありますのでご注意ください。

インストールに必要なディスク要件は環境により異なるため、コンポーネントごとの容量などの詳細は下記動作要件をご参照ください。

Arcserve UDP 10.x 動作要件
https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-X-Software-Compatibility-Matrix?language=ja

旧バージョンからの UDP 10.3 へのアップグレード方法やインストーラの入手方法は、以下の記事をご参照ください。

Arcserve UDP 10.3 のインストール・アップグレードについて

Arcserve Unified Data Protection 10.x ダウンロード情報一覧

1.1 インストール

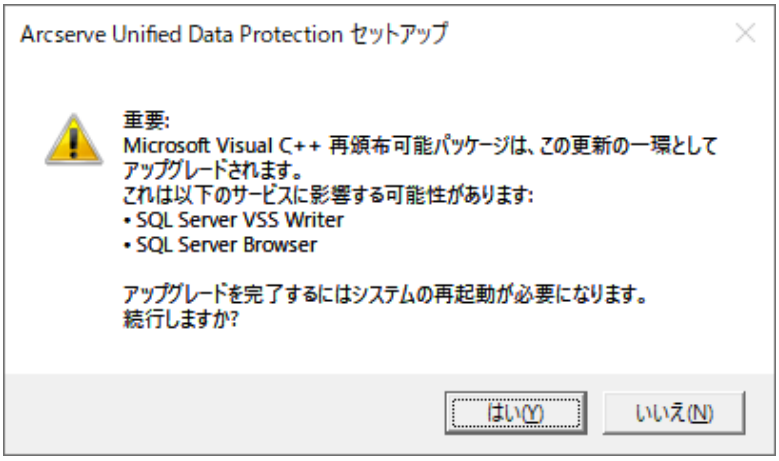
本節では Arcserve UDP 10.3 での新規インストール手順を説明します。

(1) [インストールの開始]

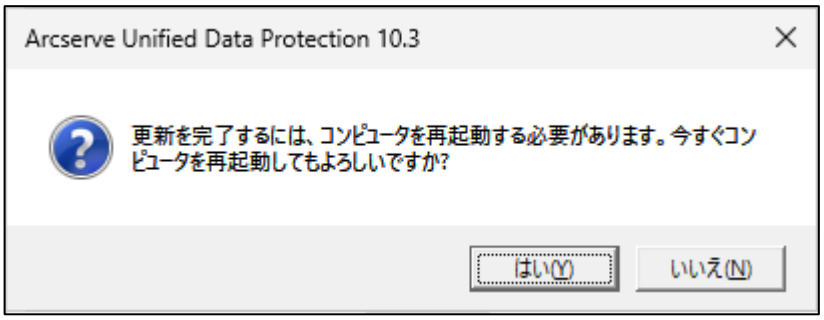
Arcserve Unified Data Protection (以降 UDP と表記) の Agent をインストールするコンピュータに、Administrator または、Administrators グループ権限を持つユーザでログオンします。「Arcserve Unified Data Protection」 インストール メディアをセットし、[setup.exe] を実行します。
※ダウンロードした Arcserve_Unified_Data_Protection.exe からもインストール可能です。

Microsoft Visual C++ に関連する考慮事項：

Windows OS のバージョン、Windows Update の状況によっては、UDP の前提コンポーネントである Microsoft Visual C++ の影響によって、[インストールの開始時] に以下の再起動可否の確認ダイアログがポップアップ表示される場合があります。その場合には、[はい] をクリックして Arcserve UDP のインストールもしくはアップグレードを続行し、完了後にシステム（OS）を再起動してください。

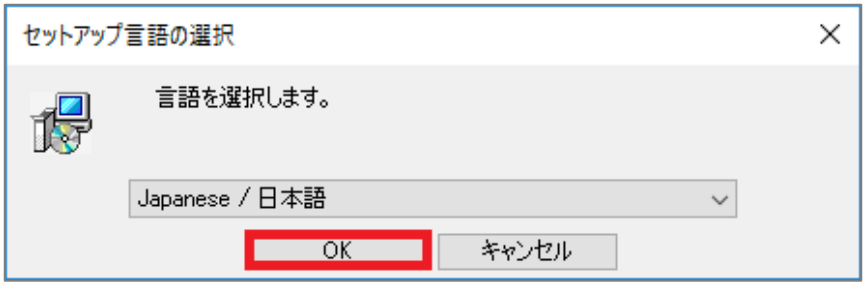


Arcserve UDP のインストール/アップグレードの完了後に下記ポップアップが表示され、[はい] をクリックするとシステムの再起動が行われます。表示されなかった場合でも、[インストールの開始時] に再起動の確認ダイアログがポップアップ表示されていた場合は、Arcserve UDP のインストール/アップグレード完了後に手動でシステムを再起動することを推奨します。



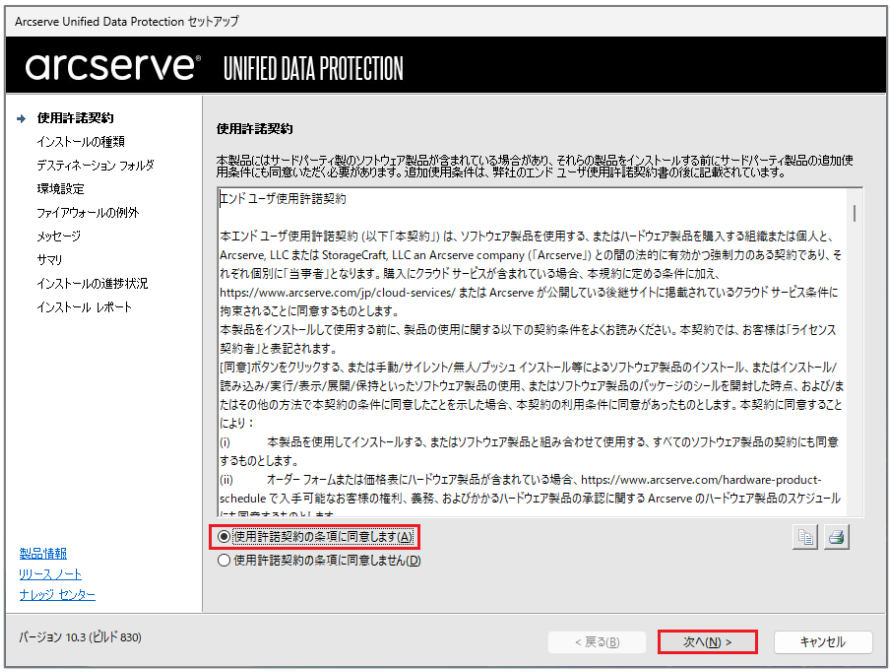
(2) [セットアップ言語の選択]

[Japanese / 日本語] が自動選択されていることを確認し、**[OK]** をクリックします。



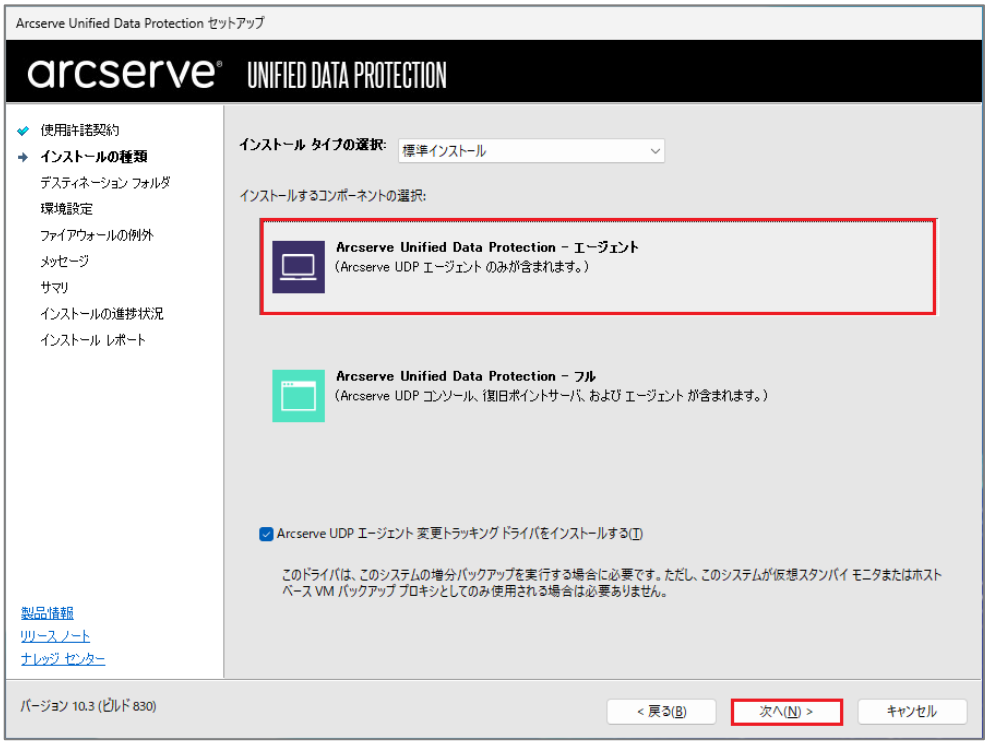
(3) [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後まで読み、同意する場合は [使用許諾契約の条項に同意します] を選択し **[次へ]** をクリックします。



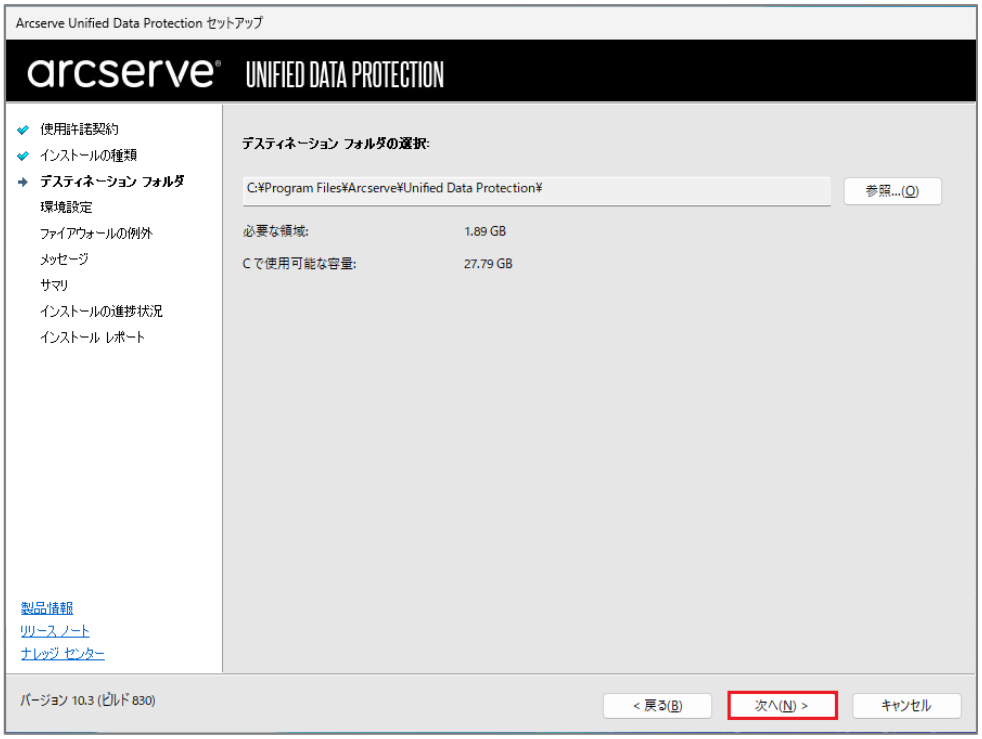
(4) [インストール タイプの選択]

[インストールするコンポーネントの選択] で、[Arcserve Unified Data Protection – エージェント] が選択されていることを確認し、**[次へ]** をクリックします。



(5) [デスティネーション フォルダの選択]

インストール先フォルダを確認し、**[次へ]** をクリックします。



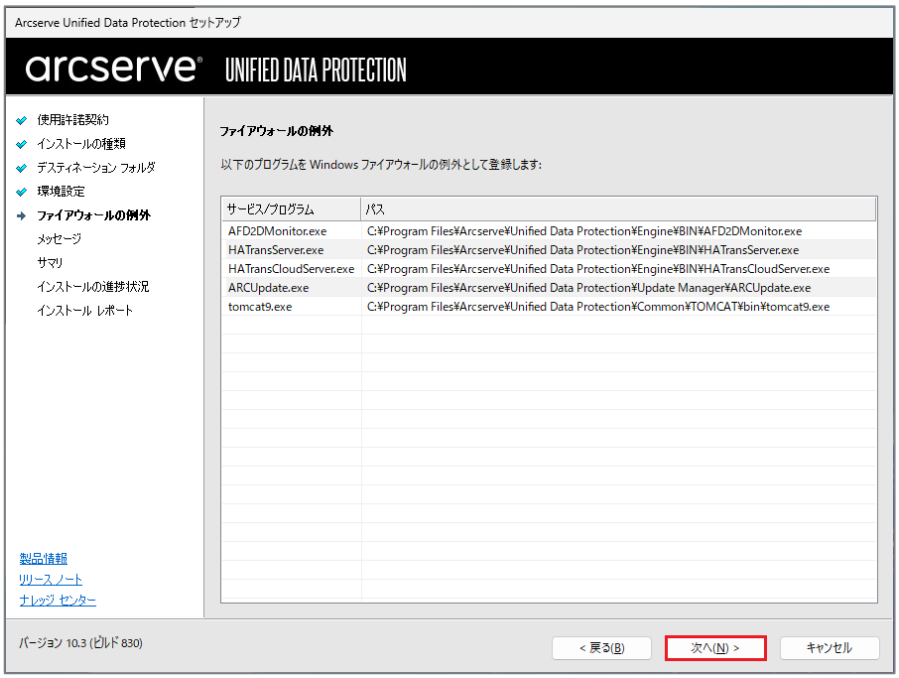
(6) [環境設定]

使用するプロトコルを 「HTTPS」 または 「HTTP」 から選択します。ここでは、HTTPS(デフォルト)を選択します。また、Windows ファイアウォールに登録するポート番号を確認します。

デフォルトで設定されるポート番号は「8014」です。ここで登録したポート番号を使用して、UDP Agent の操作をリモートのブラウザからも行うことができます。バックアップに使用する Windows 管理者の名前 [ユーザ名]を確認し、**[パスワード]** を入力後、**[次へ]** をクリックします。

(7) [ファイアウォールの例外]

Windows ファイアウォールの例外として登録します。内容を確認し、**[次へ]** をクリックします。

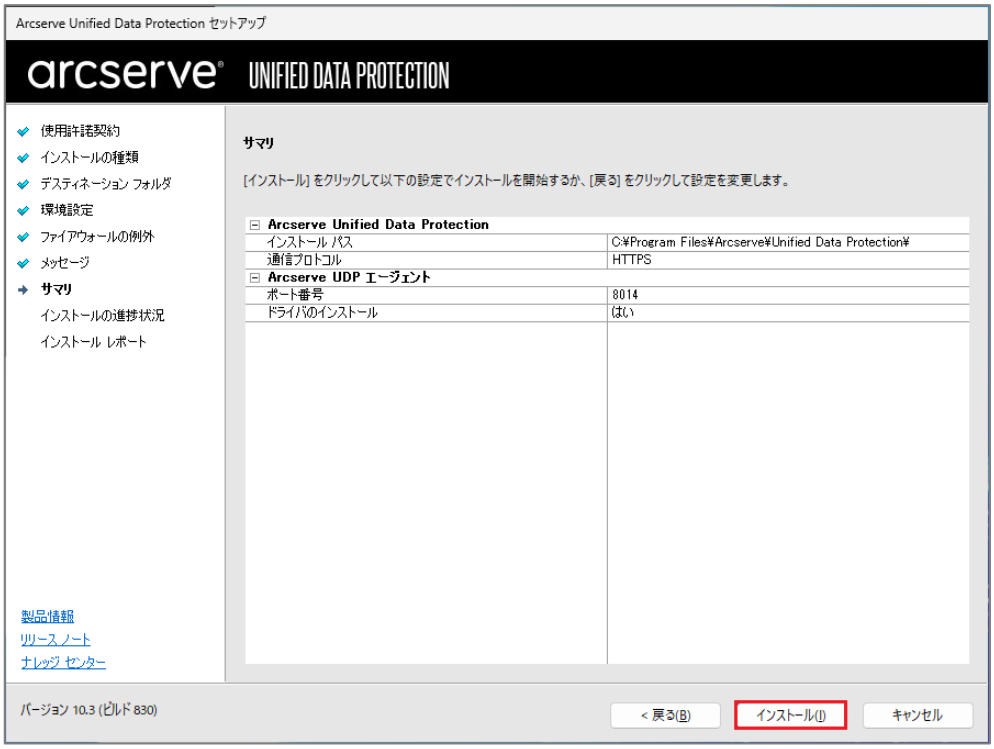


(8) [メッセージ]

セットアップの検証が完了し、インストールの準備が整いました。**[次へ]** をクリックして進めます。

(9) [サマリ]

サマリ内の設定項目が正しければ **[インストール]** をクリックし、インストールを開始します。もし相違があれば [戻る] をクリックして前に戻り、再設定します。



(10) [インストールの進捗状況]

インストール全体の進捗状況を確認します。

(11) [インストール レポート]

「インストールが完了しました」のメッセージを確認し、**[完了]** をクリックします。デフォルトは、インターネットが接続できる環境であれば、製品の更新を確認し最新の状態にすることができます。またチェックを外し、更新を確認せずに [完了] させることもできます。オフライン環境で更新を手動で適用する場合、ここよりダウンロードしてください。

(12) [更新の確認]

[更新の確認] 画面からダウンロード経路を選択して[更新] をクリックすることで更新の確認が行われ、インストールした Arcserve UDP よりも新しいマイナー リリースが公開されていれば、そのインストーラのダウンロードが開始されます。

※ お客様ご利用の OS やアプリケーションのインストール状況により再起動を求められる場合があります。再起動を求められた場合は、[はい] をクリックしシステムを再起動してください。

※ OS が Windows Server 2025 の場合、UDP 10.2 以降の新規インストールまたはアップグレードをお勧めします。UDP 10.0 で Windows Server 2025 をサポートするにはパッチ P00003362 の適用が必要ですが、このパッチは [更新の確認] では適用されません。 Arcserve Unified Data Protection 10.x ダウンロード情報一覧 よりパッチをダウンロードして適用する必要があります。

1.2 バージョンの確認

最新のアップデートが適用されたか確認するため、バージョンを確認します。

(1). [タスクトレイアイコン]

タスクトレイの UDP アイコンをクリックし、メニュー画面を表示し**[バージョン情報]**をクリックします。

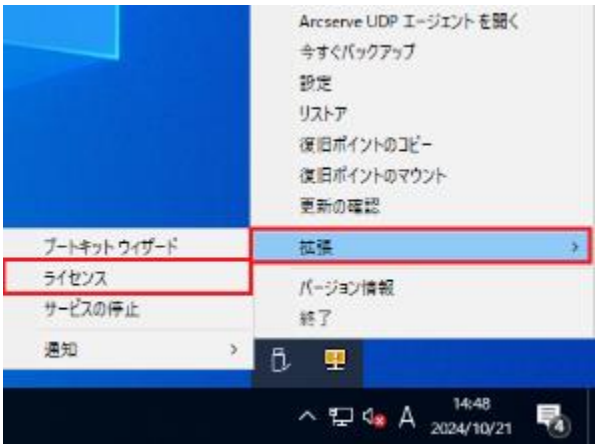
(2). [バージョンの確認]

バージョンの確認ができます。

1.3 ライセンス キーの登録

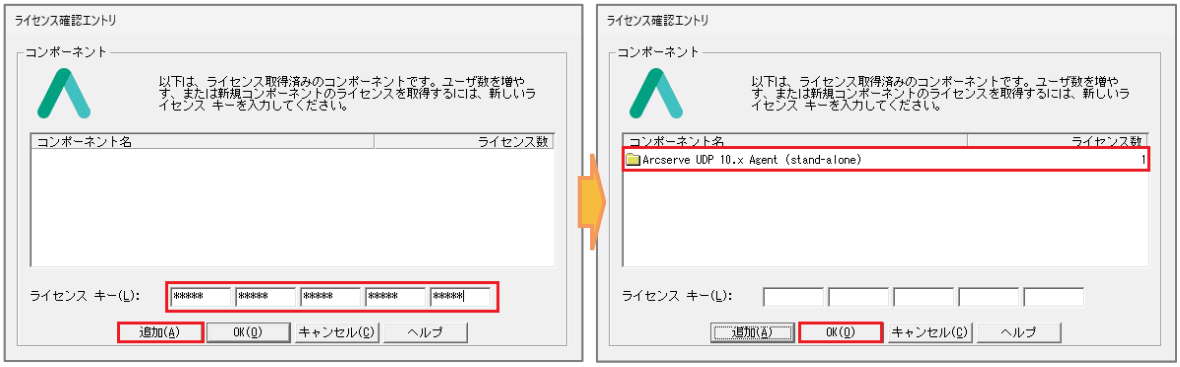
Windows タスクトレイの [エージェント モニタ] アイコンをクリックし **[拡張]** - **[ライセンス]** と選択し、[ライセンス確認エントリ] よりライセンス登録を行います。

(1) ライセンス画面の起動



キーの入力

[ライセンス確認エントリ] 画面で、Arcserve UDP Windows エージェントのキーを [ライセンスキー(L)] 欄に入力し、[追加] をクリックします。キーが追加され、コンポーネント名にライセンスが追加されたことを確認し、[OK] で終了します



1.4 修正ファイルの適用

修正ファイルの入手と適用には以下の 2 つの方法があります。

(1) UDP Agent の更新機能を使用

UDP Agent のインストールされているマシンで Web へのアクセスが可能な場合、修正ファイルを Arcserve サポート ポータルからスケジュールでダウンロードするか、[ヘルプ] メニューから[更新の確認]で手動にてダウンロードできます。

ダウンロードした修正ファイルは任意の時間に、手動で適用する事が可能です。

(2) Arcserve サポート ポータルを利用

Arcserve サポート ポータルから修正ファイルを手動でダウンロードし、適用します。修正ファイルは以下のリンクからダウンロード可能です。

Arcserve Unified Data Protection 10.x ダウンロード情報

Arcserve UDP Patch Index

1.5 UDP 10.0/10.1 脆弱性対応について

UDP 10.0 / UDP 10.1 をご利用の環境では、脆弱性への対応のため UDP 10.2 以降 へのアップグレードを推奨しています。脆弱性の内容については、以下に公開しております。

2025 年 8 月 Arcserve UDP 脆弱性とその修正モジュールについて

アップグレードを行う際は以下の技術情報より前提条件や注意事項をご確認ください。

Arcserve UDP 10.3 のインストール・アップグレードについて

以下 UDP 10.3 のダウンロードページのスクリーンショットです。Windows 環境用の UDP 10.2 及び 10.3 フル インストーラ（Remaster）は UDP 10.0 / UDP 10.1 からのアップグレードには使用できません。UDP 10.0 / UDP 10.1 から UDP 10.2 及び 10.3 へアップグレードするには、アップグレード インストーラをご利用ください。本インストーラ及びアップグレード モジュールの仕様は UDP 10.2/10.3 のバージョンが該当します。

Related Download

フル インストーラ (Remaster):

UDP 10.3 フル Remaster インストーラ
MD5: 0b6e44683d0a74241e0c646ed4157a00
UDP 10.3 Windows Agent Remaster インストーラ
MD5: f0f892387d7e9f35591fe1aa7695ae5f
UDP 10.3 Gateway Remaster インストーラ
MD5: aa6d761882319bdd38ef552c0e346f14
注: フル インストーラは、UDP 8.x、UDP 9.xからのアップグレード、および UDP 10.3 の新規インストール時に使用できます。UDP 10.0、10.1、10.2 からのアップグレードの場合、アップグレード インストーラを使用してください。

アップグレード インストーラ:

UDP 10.3 フル アップデート
MD5: 44aab5e81562b82aaca739f9086a9bcc
UDP 10.3 Windows Agent アップデート
MD5: fac8eb4246cdf5e70c65e21a74d2780f
UDP 10.3 Gateway インストーラ
MD5: 885eeedf65a164052e6cfcf762545ef0
UDP 10.3 Linux Backup Server (LBS) ※
※アップグレード/新規インストールの双方に使用可能です。
MD5: 78faa1ea8ccf8ff147a16c0de1b47351

1.6 オフライン環境での UDP 10.3 へのバージョン アップ

オフライン環境でアップデート用ソフトウェアの入手が必要な方は、以下よりインストーラをダウンロードしてください。

Arcserve UDP 10.3 ダウンロード リンク

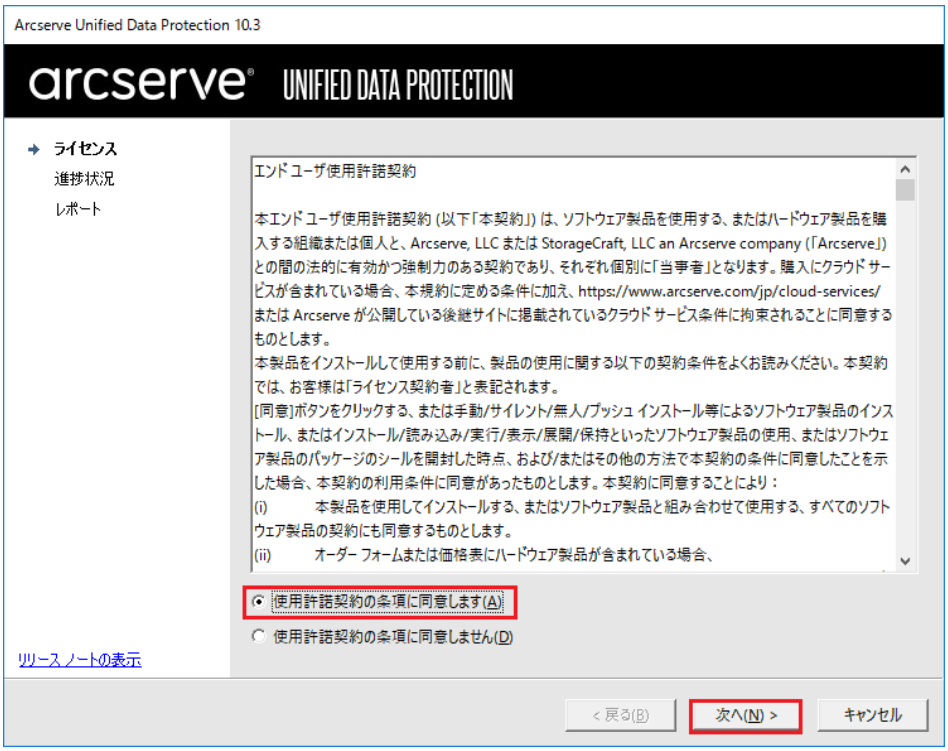
なお、本節では UDP 10.0/10.1 から UDP 10.3 へのアップグレード手順を解説します。UDP 8.x/9.x から直接 UDP 10.3 へアップグレードを行うには、本節の手順とは異なり、フル インストーラ（Remaster）を使用します。

(1) [アップグレードの開始]

UDP の Agent をアップグレードするマシンに、Administrator または、Administrators グループ権限を持つユーザでログオンします。ダウンロードしたアップグレード モジュールを管理者権限にて実行します。

(2) [使用許諾契約]

使用許諾契約を最後まで読み、同意する場合は [使用許諾契約の条項に同意します] を選択し **[次へ]** をクリックします。

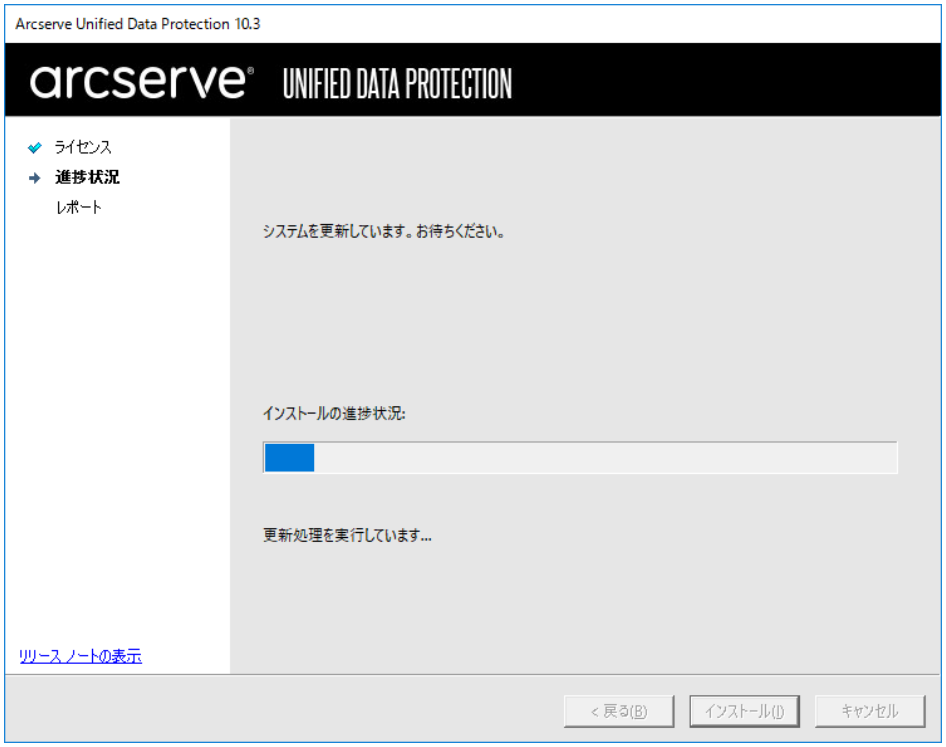


(3) [アップグレードの開始]

アップグレードの準備が整いました。**[インストール]**をクリックします。

(4) [アップグレードの進捗状況]

アップグレード全体の進捗状況を確認します。



(5) [アップグレード レポート]

「ソフトウェアの更新が正常にインストールされました」のメッセージを確認し、[完了] をクリックします。

(6) [バージョン確認]

アップグレード後、UDP のバージョンが「10.2」もしくは「10.3」 であることをご確認ください。

確認手順は、本ガイドの「1.2 バージョンの確認」をご覧ください。

・10.3 の場合

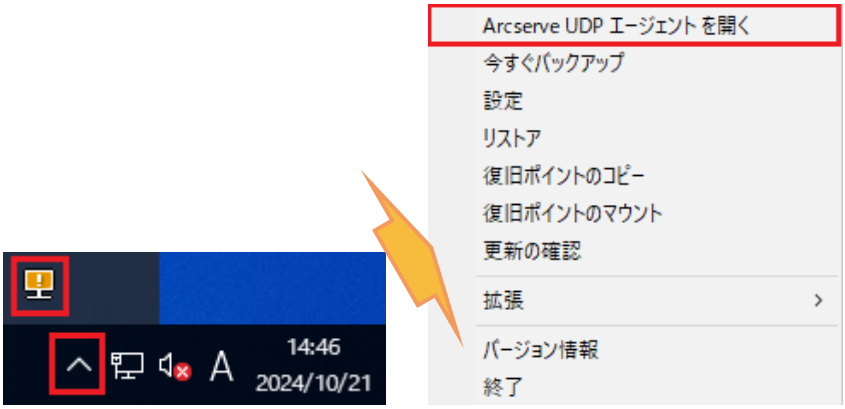
2. バックアップ運用の開始

ここではデフォルト設定による最も簡単な運用開始手順を説明します。
以下の説明に従って、初めてバックアップ設定を保存した場合、毎日 22:00 にバックアップが自動的にスケジュールされます。運用要件に応じバックアップ設定を変更するには、本章「3.1 バックアップ スケジュールの設定例」を参照してください。

2.1 バックアップ設定

(1) [設定]

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、メニューから **[Arcserve UDP エージェントを開く]** をクリックします。



(2) [UDP エージェントの起動]

既定のブラウザが起動しますが、デフォルトの証明書が証明機関によって識別されないため、警告が表示されます。ここでは Microsoft Edge (バージョン 143.0.3650.96) での例を紹介します。

[詳細設定] を展開し [localhost に進む (安全ではありません)] を選択し続行します。

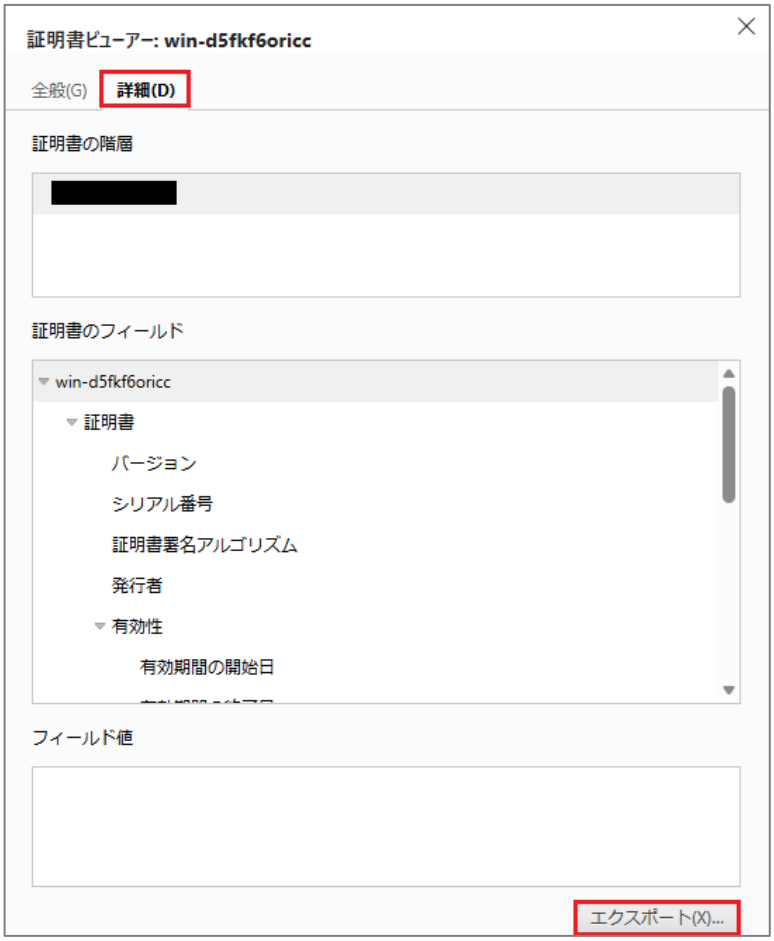
(3) [証明書エラーの確認]

アドレスバーの **[セキュリティ保護なし]** をクリックし、続いて **[>]** をクリックします。

証明書アイコン「 **」** をクリックし、サイトの証明書を表示します

(4) [証明書のエクスポート]

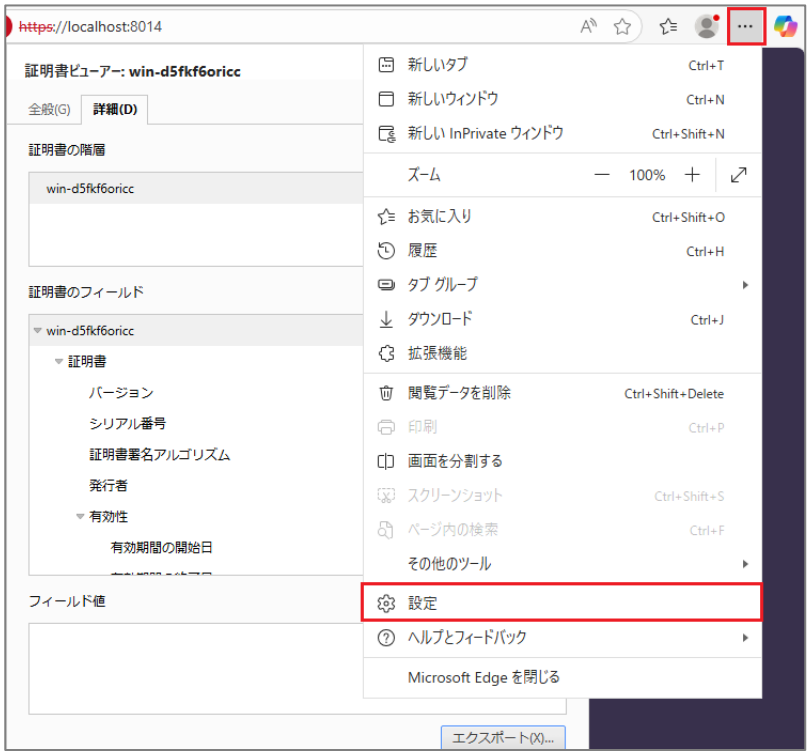
証明書を表示し、**[詳細]** タブをクリック後、**[エクスポート]**をクリックします。



ここでは C ドライブ直下に **[UDP.cer]** というファイル名を指定し、**[保存]**をクリックします。

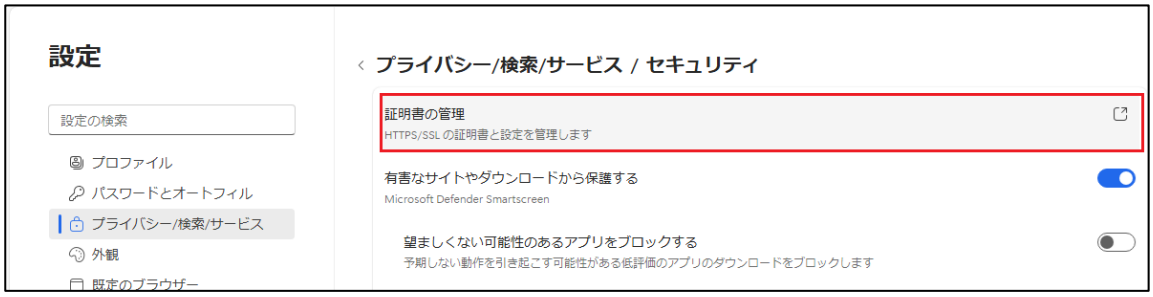
(5) [証明書のインポート]

① Microsoft Edge の **[設定]** を開きます。



② **[プライバシー/検索/サービス]** を開き、 **[セキュリティ設定]** をクリックします。

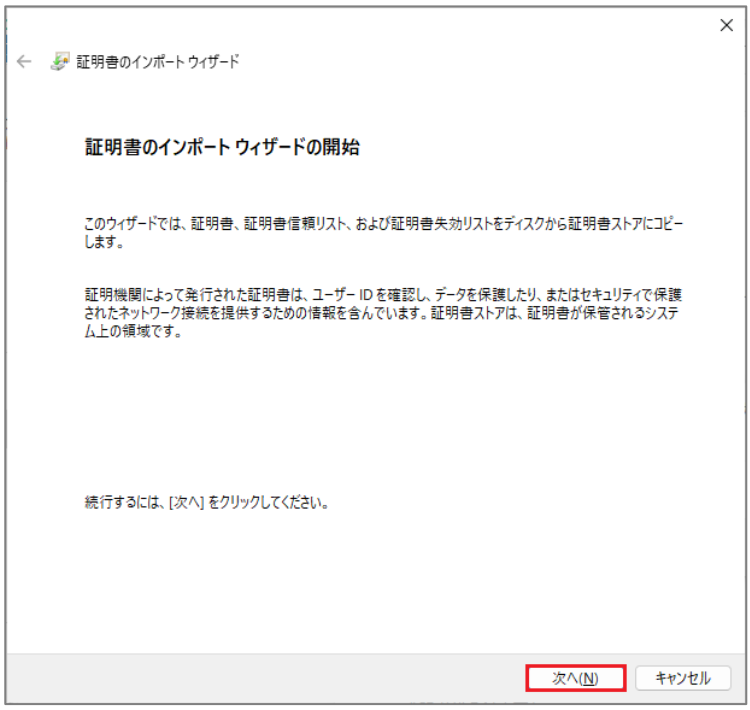
③ **[証明書の管理]** をクリックします。



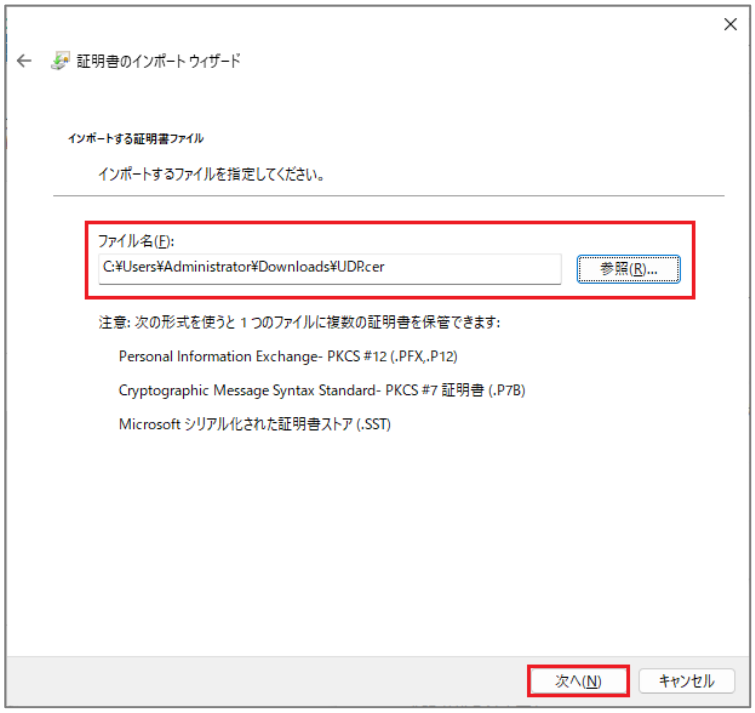
④ 証明書マネージャー より **[Windows からインポートされた証明書を管理]** をクリックします。

⑤ **[信頼されたルート証明機関]** タブで、**[インポート]** をクリックします。

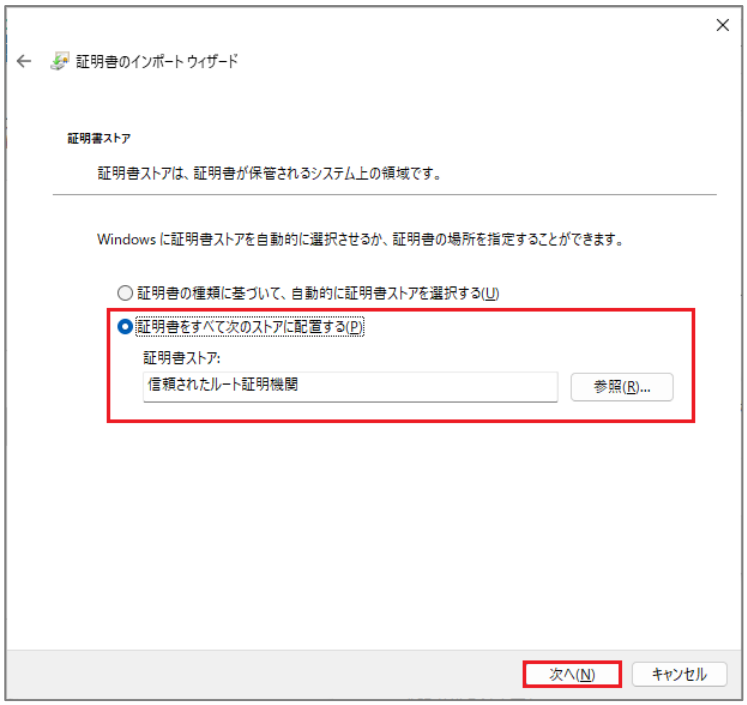
⑥ **[次へ]** をクリックします。



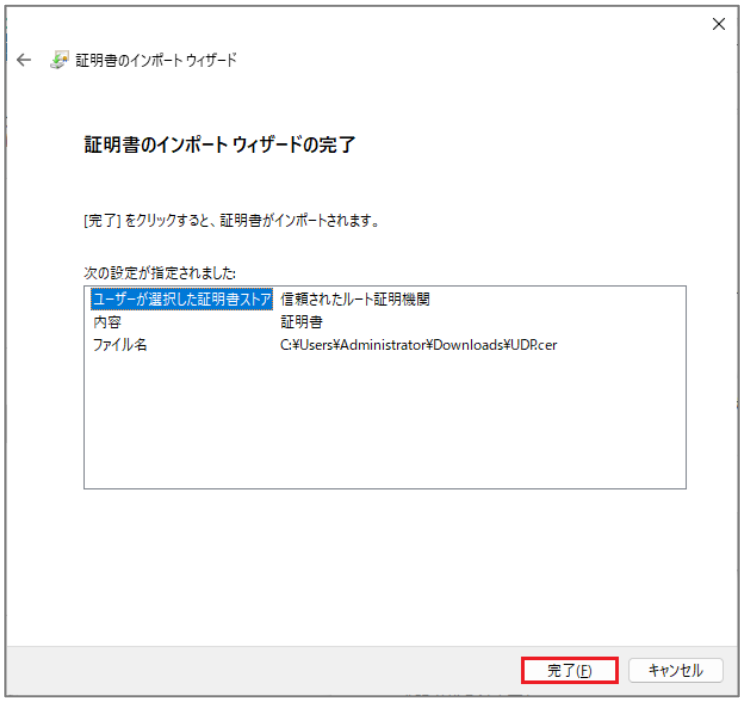
⑦ インポートする証明書ファイルを **[参照]** ボタンを押し、先ほどエクスポートした 証明書ファイルを選択し、**[次へ]** をクリックします。



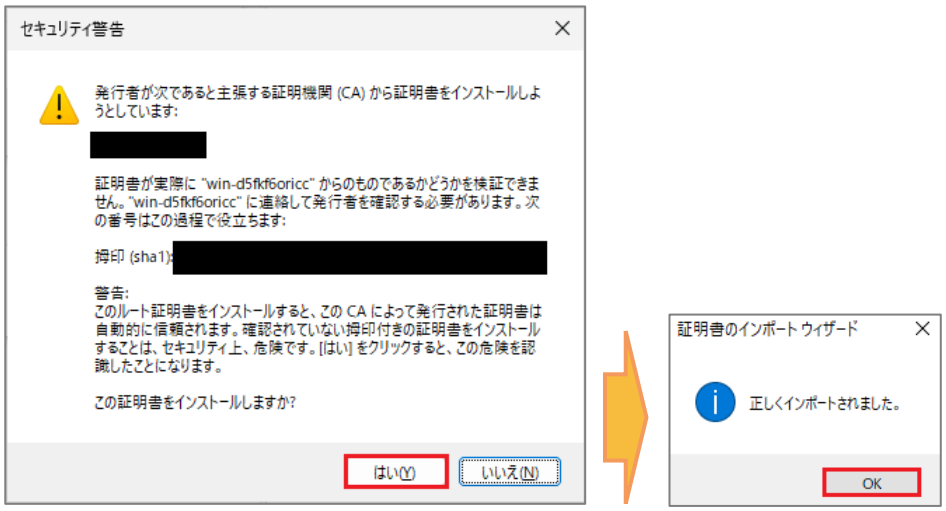
⑧ **[証明書をすべて次のストアに配置する]**を選択し、証明書ストアに **[信頼されたルート証明機関]** が表示されていることを確認し、**[次へ]** をクリックします。



⑨ 先ほどエクスポートした 証明書ファイルが選択されていることを確認し、**[完了]** をクリックします。

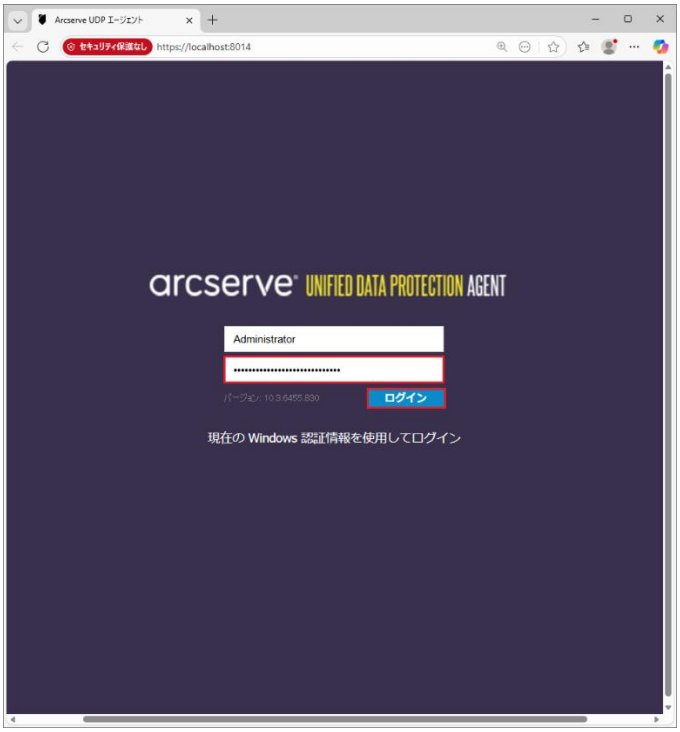


⑩ セキュリティ警告画面で、**[はい]** をクリックし証明書をインポートします。「正しくインポートされました」と表示されたことを確認し、**[OK]** を押してブラウザを再起動します



(6) [ログイン]

ブラウザの再起動後、(1)の手順で再度 **[Arcserve UDP エージェント開く]** をクリックし、UDP エージェントのログイン画面を開き、証明書エラーが解消されていることを確認します。インストール時に指定した管理者アカウントが表示されるので、**[パスワード]** を入力し **[ログイン]** をクリックします。



(7) [Arcserve UDP エージェントの使用方法]

初回ログイン時に **[Arcserve UDP エージェントの使用方法]** 画面が表示されます。この画面内の**[設定]**をクリックすると、(8)で設定する **[保護設定]** を直接開くこともできますが、このガイドでは、この画面を閉じて、Arcserve UDP のホーム画面から設定操作を行う手順で解説します。

次回ログイン時に、この画面を表示させたくない場合は、**[今後、このダイアログボックスを表示しない]**にチェックを入れてから、**[閉じる]**をクリックします。

(8) [設定]

Arcserve UDP ホーム画面右側の [ナビゲーション] タブ内の **[設定]** タスクをクリックします。

(9) [バックアップ設定] - [保護設定] - [バックアップ先]

最小限の設定でバックアップを実行するには [バックアップ先] の指定が必要です。「バックアップ先」 の **[参照]** ボタンをクリックし、バックアップ先フォルダを指定します。

(10) [バックアップ場所の選択]

バックアップデータの保管先フォルダの選択を行い **[OK]** をクリックします。

このガイドの例では D ドライブの「D:¥UDP」をバックアップ先フォルダとして指定します。

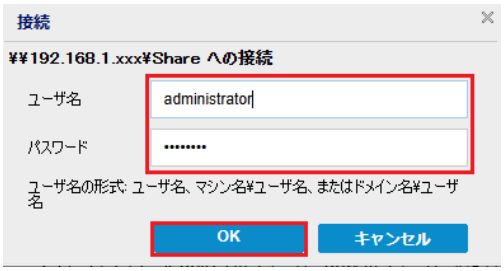
※ UDP ではローカル ディスク内のフォルダをバックアップ先として指定した場合、バックアップ先フォルダを含むディスク全体がバックアップ対象から除外されます。全てのディスクをバックアップ対象にする必要がある場合は、以下の「バックアップ先として共有フォルダを設定する方法」を参照し共有フォルダをバックアップ先として設定します。

[バックアップ先として共有フォルダを指定する方法]：

① 共有フォルダをバックアップ先として指定する際には、“ ¥¥ ”で始まる UNC パス形式でサーバ名もしくは IP アドレスを指定し共有フォルダ名を直接入力します。

以下の入力例では 192.168.1.xxx という IP アドレスを持つサーバの [Share] という名称の共有フォルダをバックアップ先として指定しています。入力後、共有フォルダにアクセスするために必要なアカウント情報を保存するため、テキストボックス横の緑色の➔アイコンをクリックします。

② 共有フォルダに接続するためのアカウント情報を入力後 [OK]をクリックし、接続アカウント情報を保存します。

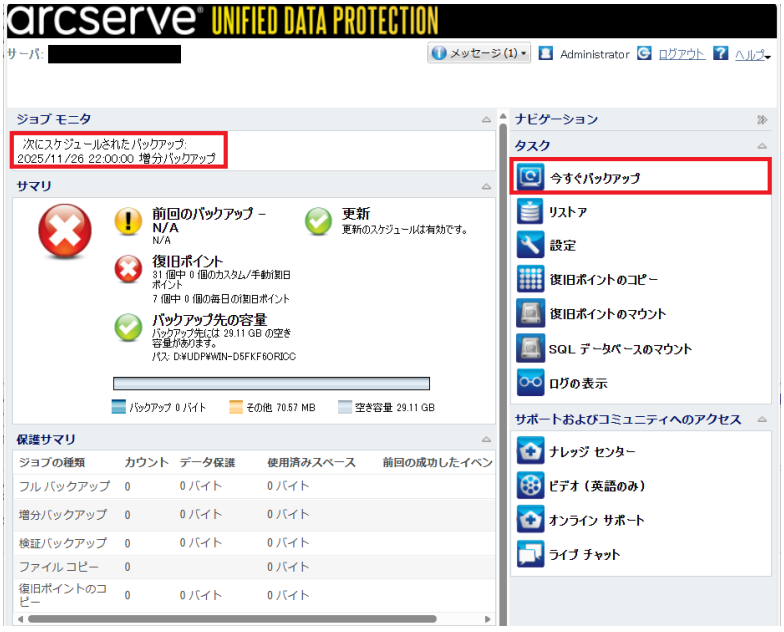


(11) [設定の保存]

[設定の保存] をクリックし設定を保存します。保存が完了すると、自動的にデフォルトのバックアップスケジュールが設定され、バックアップ運用が開始されます。

(12) [スケジュール確認]

バックアップ スケジュールが登録され運用が開始されます。バックアップ中のステータスや次回のスケジュールは UDP ホーム ページ内の [ジョブ モニタ] から確認することができます



デフォルトのスケジュール設定では毎日 22:00 にバックアップが実行されます。スケジュールを待たず、すぐにバックアップを開始するには、ナビゲーションのタスク一覧より、 [今すぐバックアップ] をクリックします。

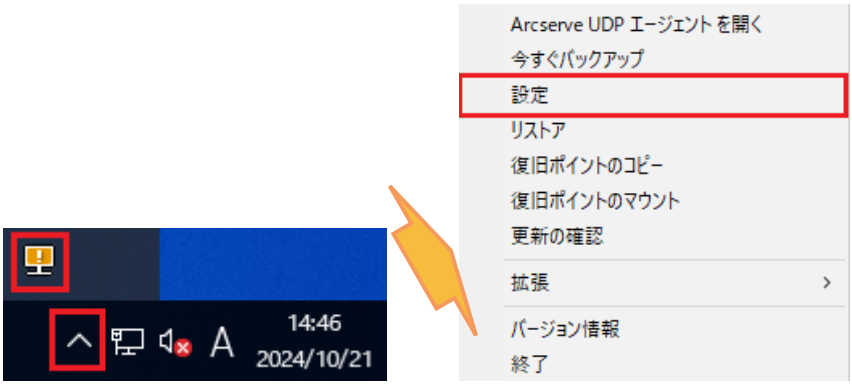
3. バックアップ スケジュールの設定例

3.1 バックアップ スケジュールの設定例

ここでは、月曜日から金曜日の 23 時に増分バックアップを行い、土曜日および日曜日にはバックアップを実施しない例を紹介します。

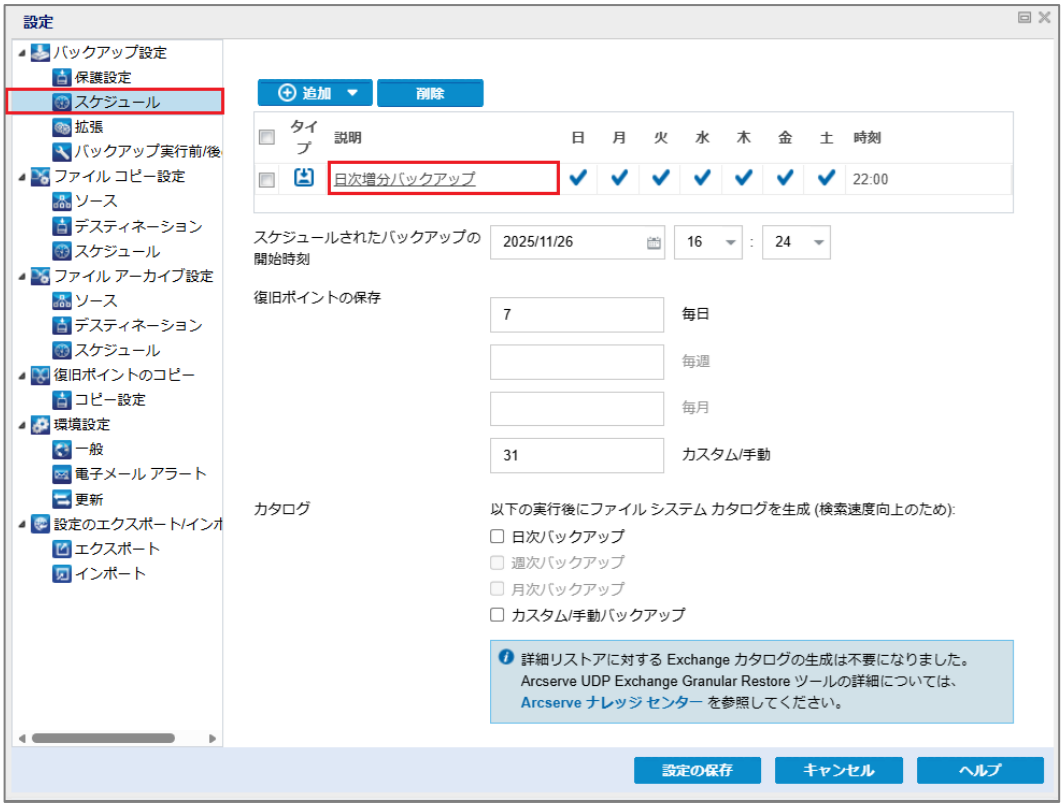
(1) [設定]

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、**[設定]** をクリックします。



[設定] - [スケジュール]

デフォルト スケジュールを変更するには、**[設定] – [スケジュール]** タブをクリックし、**[日次増分バックアップ]**をクリックします。



[バックアップ スケジュールの編集]

[日次増分バックアップ] をクリックし、以下のように設定し、**[保存]** をクリックします。

開始時刻 ： 23：00

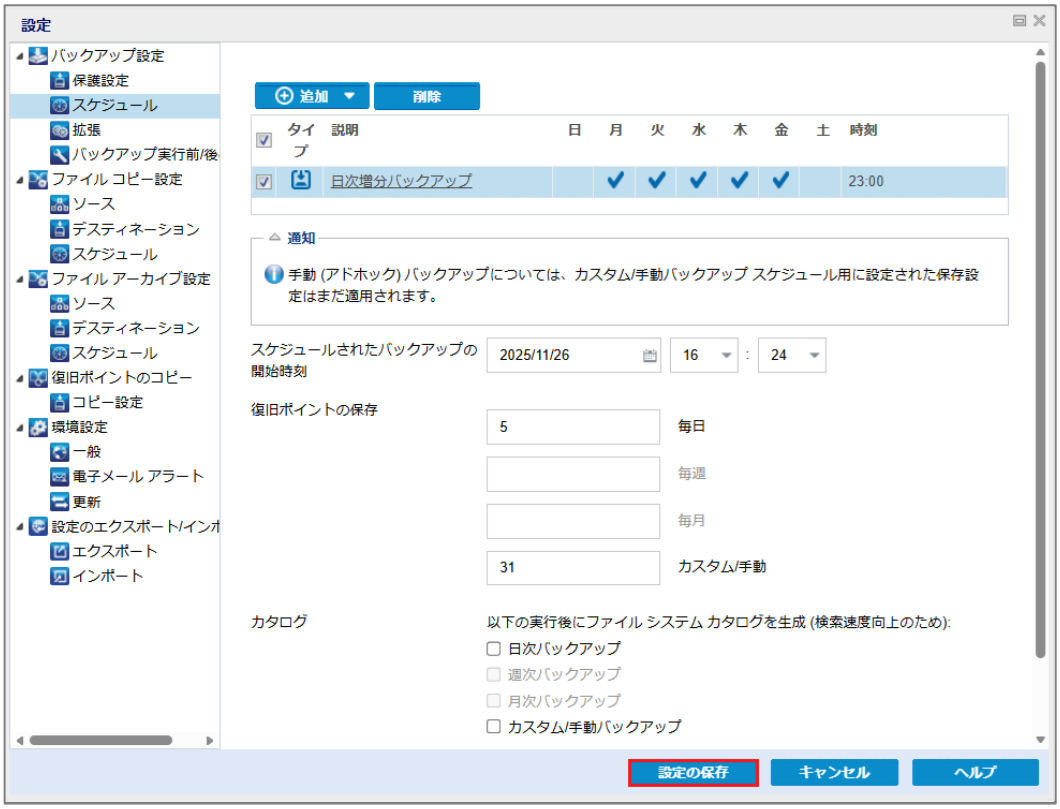
曜日 ： ☑月曜日 ☑火曜日 ☑水曜日 ☑木曜日 ☑金曜日

保持するバックアップ数 ： 5

[設定の保存]

月曜日から金曜日の 23 時にバックアップを実行する設定が完了しました。[設定の保存] をクリックします。

※ カスタム バックアップで保持する復旧ポイント数は、デフォルトでは「31」ですが、バックアップ要件にあわせて変更してください。



4. バックアップ 設定のエクスポートとインポート

4.1 バックアップ 設定のエクスポート

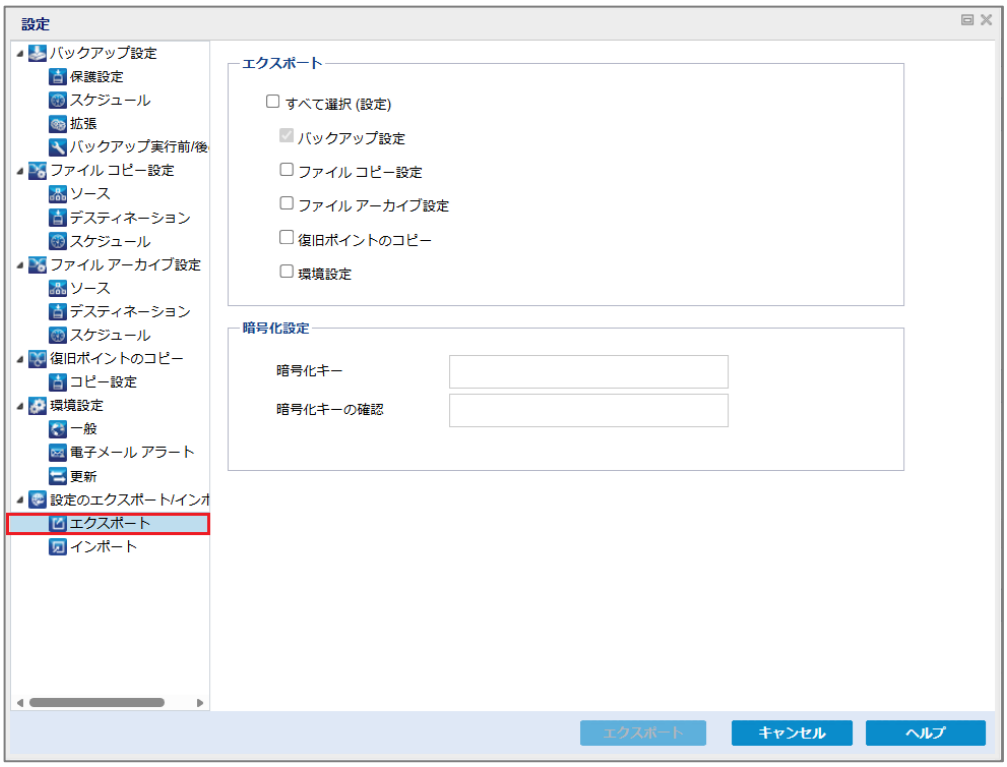
設定した情報は、ファイルとして保管することができます。ここでは設定ファイルのエクスポートの方法を紹介します。

(1) [設定] 画面の起動

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、[設定] をクリックします。

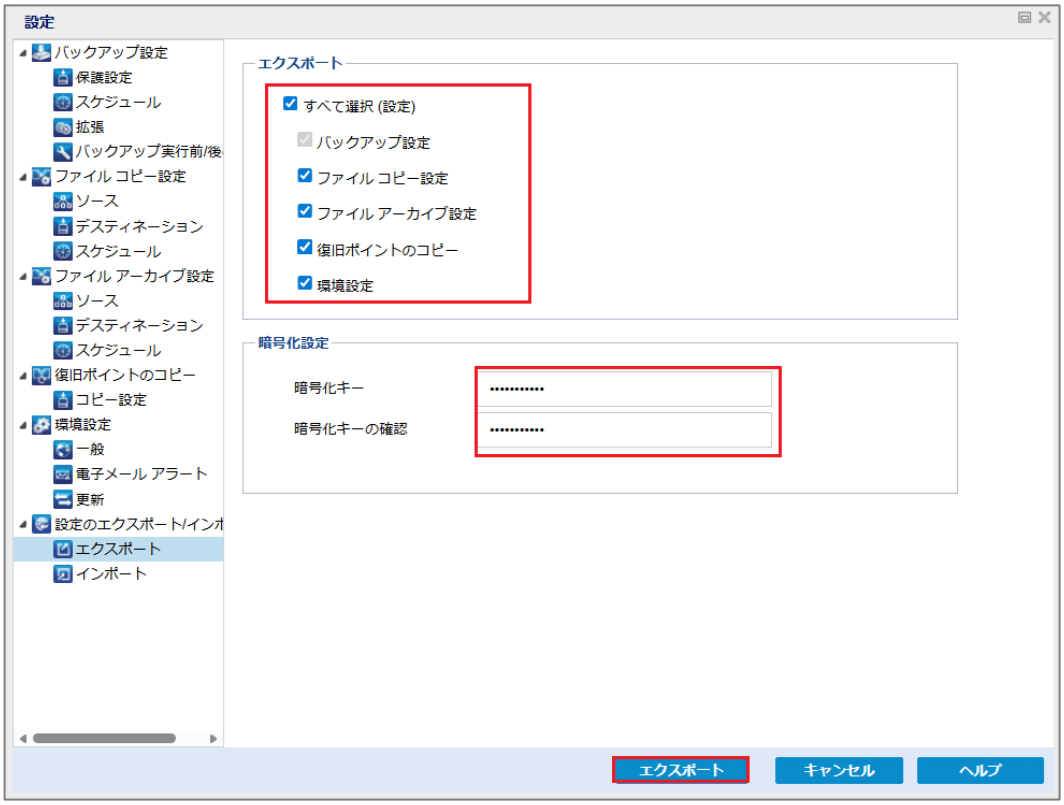
(2) [設定]

バックアップ スケジュールの設定をエクスポートする場合は、[設定] – **[エクスポート]** メニューで行います。

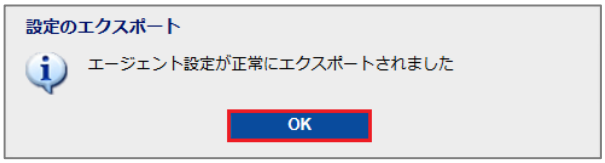


(3) [エクスポート]

エクスポートする設定情報を選択します。ここでは **[すべて選択]** にチェックを入れ、すべての設定をエクスポートします。暗号化設定では **[暗号化キー]** を入力し (必須)、**[エクスポート]** をクリックします。



エクスポートが完了したら、**[OK]** をクリックします。



エクスポートが完了すると、Windows のダウンロードフォルダ「AgentSetting_**********.json」という名称でファイルが保存されます。 (**********はユニークな数字 15 桁)

※ 設定した暗号化キーを忘れないよう、適宜適切な場所に保管してください。暗号化キーを忘れると、インポートができなくなりますので十分にご注意ください。

4.2 バックアップ 設定のインポート

エクスポートした設定ファイルから、設定内容を復元することができます。ここでは、設定ファイルをインポートする方法を紹介します。

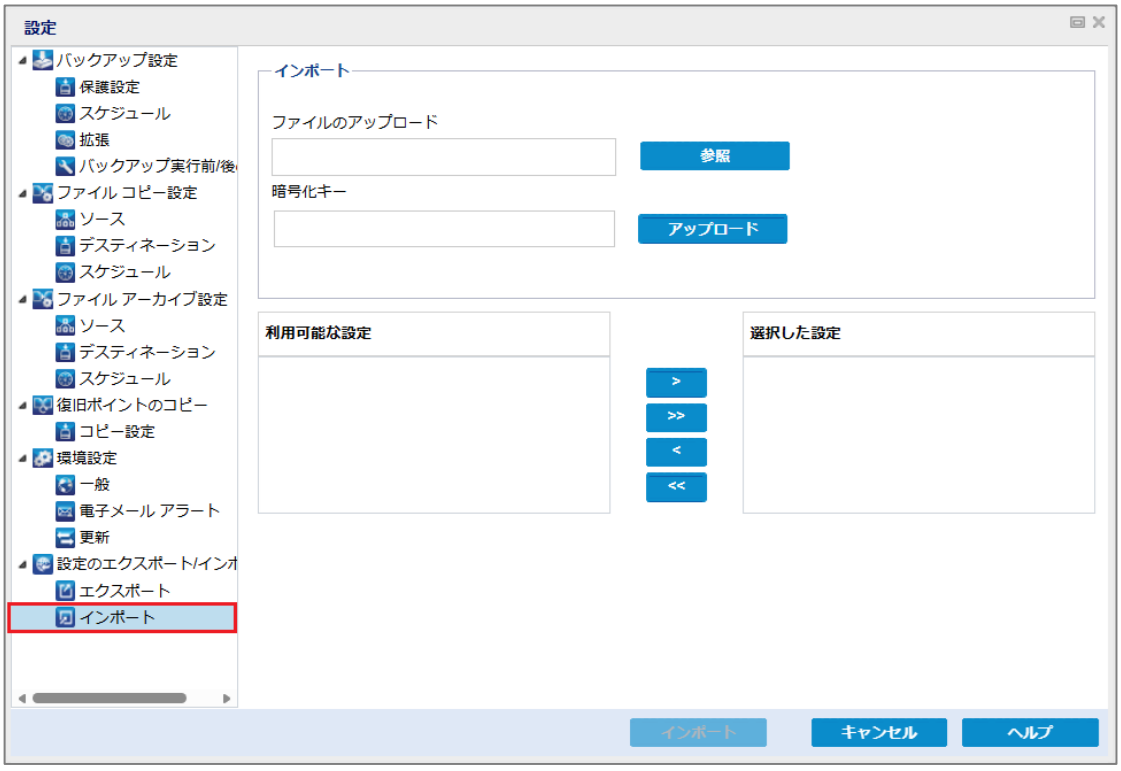
なお、バックアップ先のフォルダや共有フォルダへのアクセスなどの構成が、設定をエクスポートした環境の設定とインポートする対象の環境の設定が同じである必要があります。

(1) [設定] 画面の起動

タスク トレイ上の UDP アイコンをクリックし、**[設定]** をクリックします。

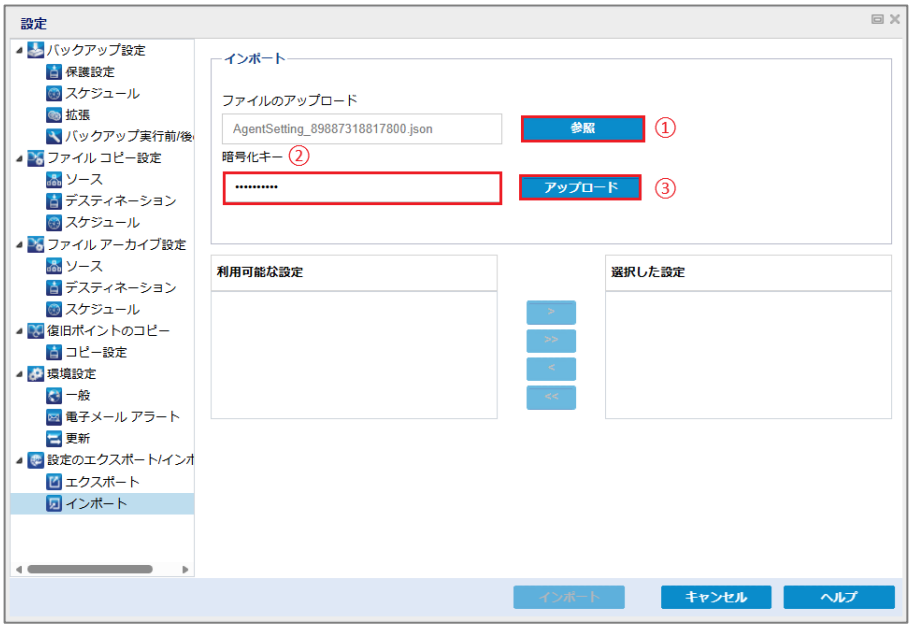
(2) [設定]

バックアップ スケジュールの設定をインポートする場合は、[設定] – **[インポート]** メニューで行います。



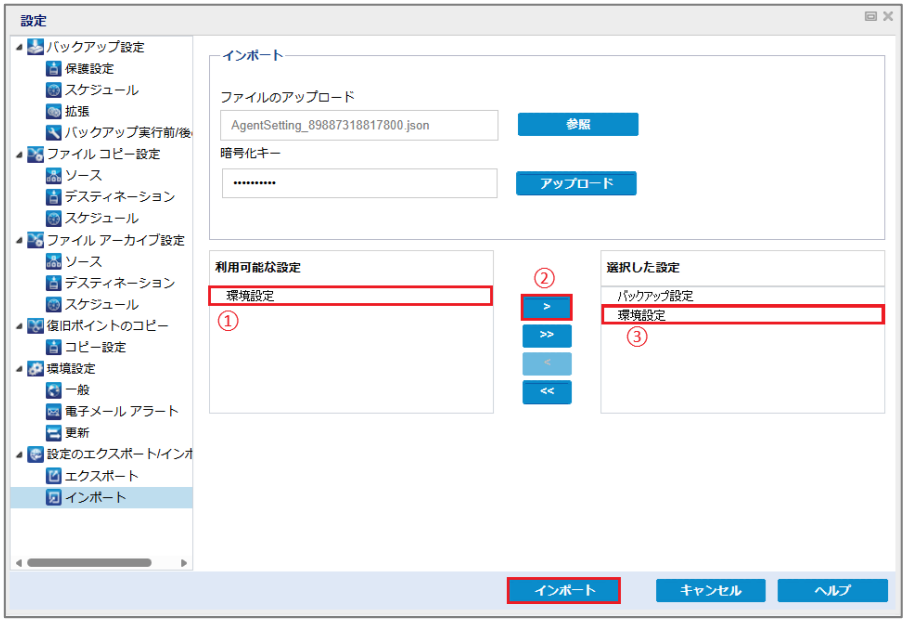
(3) [インポート] – [ファイルのアップロード]

①**[参照]** からインポートファイルを選択、②**[暗号化キー]** を入力して ③**[アップロード]** をクリックします。

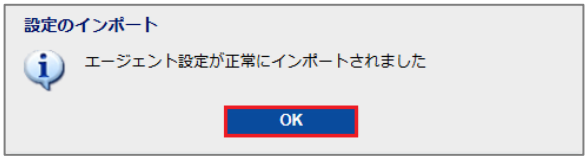


(4) [インポート] – [選択した設定]

①**[利用可能な設定]** からインポートしたい設定を選択し、② **>** をクリックして ③**[選択した設定]** に追加後、**[インポート]** をクリックします。



インポート完了後 **[OK]** をクリックし、設定内容を確認します。



5. ベアメタル復旧

ベアメタル復旧（BMR）とはベアメタル（まっさら）なハード ディスクへシステム全体を復旧し、サーバを元通りに回復する復旧手段です。UDP では OS やアプリケーションをインストールすることなく、バックアップ取得時の状態にシステム全体を回復させることができます。UDP はこのベアメタル復旧を**標準機能**として提供しています。

本章では、復旧メディアの作成方法や最も簡単な [高速モード] を使って、ローカルディスク或いは、共有フォルダに保存されているバックアップ イメージからベアメタル復旧を行う手順を説明します。
UDP はベアメタル復旧を行う際に WinPE ベースの復旧メディア (ISO イメージまたは USB メモリ)を使用します。
この復旧メディアには、ベア メタル復旧の実行に必要な情報がすべて含まれており、「ブートキットの作成」ウィザードを使用して作成できます。

本資料では、Windows Server 2022 用の復旧メディア (ISO イメージ) を作成する方法についても併せて説明します。
「ブートキットの作成ウィザード」では、OS 標準ドライバとして組み込まれていない任意のストレージやネットワークカードのドライバを復旧メディアに組み込むことができます。ドライバを組み込まずメディアを作成することも可能ですが、その場合でも必要に応じて復旧作業中に任意のドライバをロードして使用することができます。従って、ドライバの組み込み有無に関係なく、同一 OS バージョンの復旧であれば、復旧メディアを汎用的に使いまわすことができます。この復旧メディアを作成するには Windows ADK (Windows アセスメント & デプロイメント キット) または Windows AIK (Windows 自動インストール キット) をダウンロードし、インストールする必要があります。インストールが必要なキットは復旧対象サーバの OS バージョンによって異なります。詳細は「5.1 復旧メディアの作成」を参照ください。

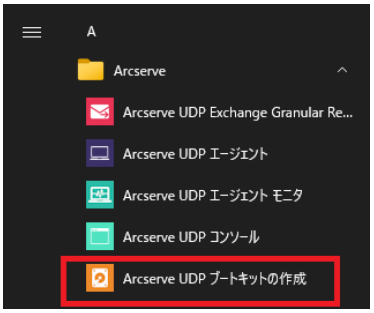
5.1 復旧用メディアの作成

本章では、ブートキットの作成ウィザード実行時に、Windows ADK をダウンロードし復旧メディアを作成する一連の操作を記載します。

UDP Windows Agent がインストールされた OS からインターネットにアクセスできない環境の場合は、アクセス可能な環境から Windows ADK を事前にダウンロードし、Windows ADK をインストールする手順が必要となります。

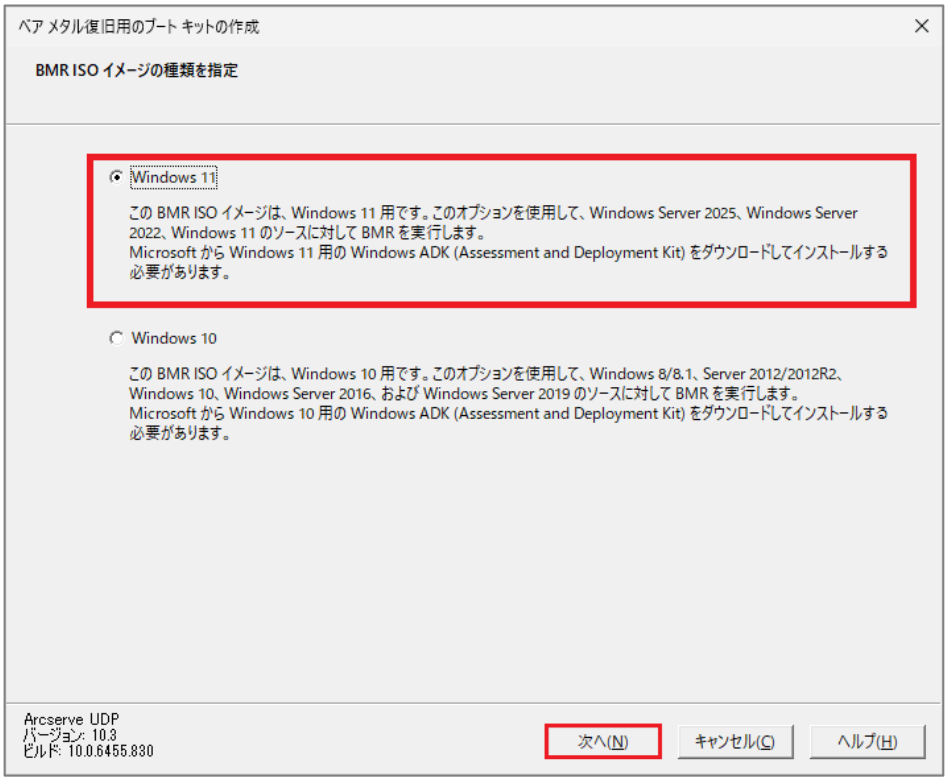
(1) [ブートキットの作成] ウィザードの起動

Windows スタートメニューから、[Arcserve] のメニューを展開し、**[Arcserve UDP ブートキットの作成]** を選択します。



(2) [BMR ISO イメージの種類を指定]

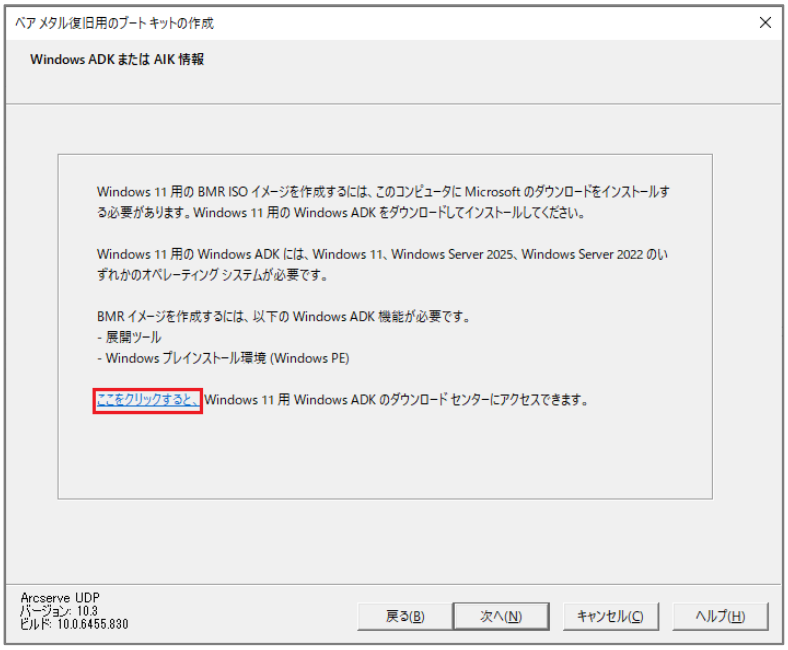
復旧対象サーバの OS バージョン(※)に応じて、[Windows 11]、[Windows 10] を選択します。このガイドでは、Windows Server 2022 を復旧するため、**[Windows 11]** を選択し、**[次へ]** をクリックします。



※ Windows Server 2008 R2 の復旧を行う場合は、Windows 10 の Windows ADK / PE アドオンをインストールし、[Windows 10] を選択してください。

[Windows ADK または AIK 情報]
「ブートキット ウィザード」では、起動時に Windows ADK (Windows アセスメント & デプロイメント キット) がインストールされていない場合は、[Windows ADK または AIK 情報] 画面を表示します。
※Windows ADK または Windows AIK がインストール済みの方は (4) 手順へ進んでください。
本ガイドでは ADK for Windows Server 2022 を使用して、Window Server 2022 を復旧する手順を説明します。下図赤枠の **[ここをクリックすると、]** をクリックし、Windows ADK のダウンロード センターから **ADK for Windows Server 2022** と **Windows Server 2022 用 の Windows PE アドオン** のインストーラをダウンロードします。ADK for Windows Server 2022 による復旧メディア作成が必要となる旨、UDP10 注意/制限事項の「ベア メタル復旧用メディア作成に関する注意/制限事項」にも記載しております。

2025 年 09 月末時点では、ADK for Windows Server 2022 と Windows Server 2022 用 の Windows PE アドオンのインストーラよりインストールに必要なファイルをダウンロードすることが可能です。これにより、オフライン環境でのインストールが可能です。ダウンロード先には両方合わせて約 5.5GB 以上の空き容量が必要となります。本ガイドではこれらのファイルから ADK やアドオンをインストールする手順含め、ベアメタル復旧の手順を説明します。



Widows ADK のダウンロードについて
Windows 10 バージョン 1809 以降、Windows プレインストール環境 (Windows PE) はアセスメント & デプロイメント キット (ADK) とは別にリリースされるようになりました。必ず Windows ADK 共に ADK 用の Windows PE アドオンもインストールします。

Windows 10 ベースの復旧メディアは、Windows 8 / 8.1、Windows Server 2012 / 2012R2、Windows 10、Windows Server 2016、Windows Server 2019 の復旧メディアとして利用できます。

なお、Windows Server 2022 / 2025 のベアメタル復旧では、本ガイドの様にブートキットの作成の際に Windows 11 を選択し、ADK for Windows Server 2022 / 2025 および、対応した Windows PE アドオンを使用して復旧メディアを作成する必要があります。

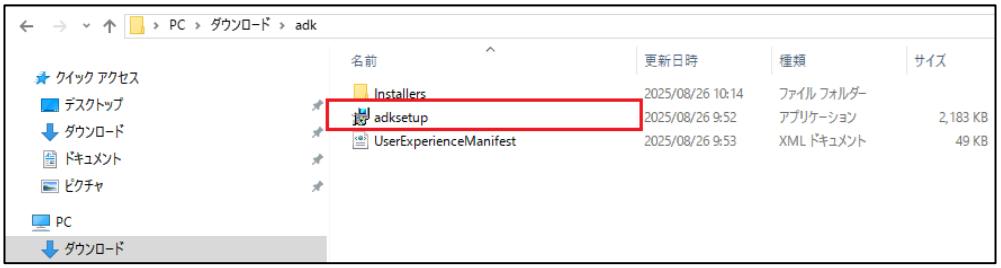
※ Windows Server 2025 環境の場合は、UDP 10.1 以降へのアップグレード もしくは P00003362 の適用が Arcserve UDP Agent for Windows のインストール後に必要です。アップグレード手順は、本ガイド内の「オフライン環境での Arcserve UDP 10.2 へのバージョンアップ」をご確認ください。

※ Windows Server 2025 用の ADK および PE アドオンは以下のサイトよりダウンロードしインストールしてください。
ADK 10.1.26100.2454 をダウンロードする (2024 年 12 月)

<ADK for Windows Server 2022 のインストール>

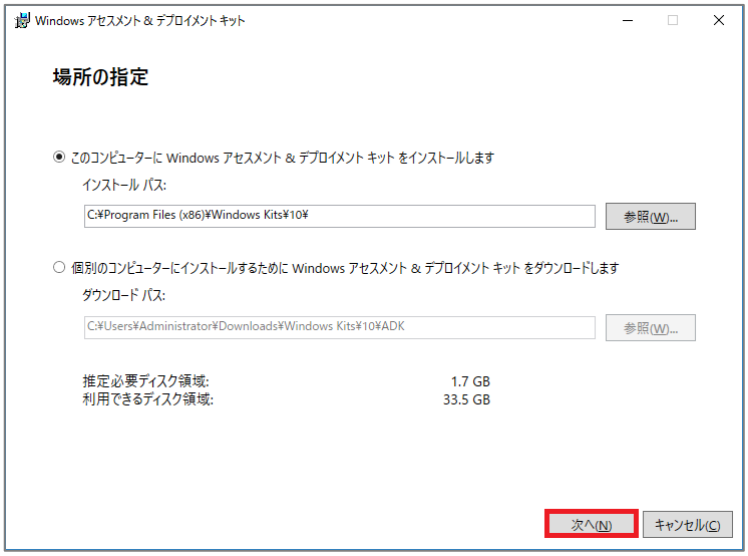
① [Windows ADK セットアッププログラムの実行]

ダウンロード、もしくは配置した adksetup.exe をダブルクリックするなどして、実行します。



[場所の指定]

Windows ADK のインストール先フォルダを指定し **[次へ]** をクリックします。

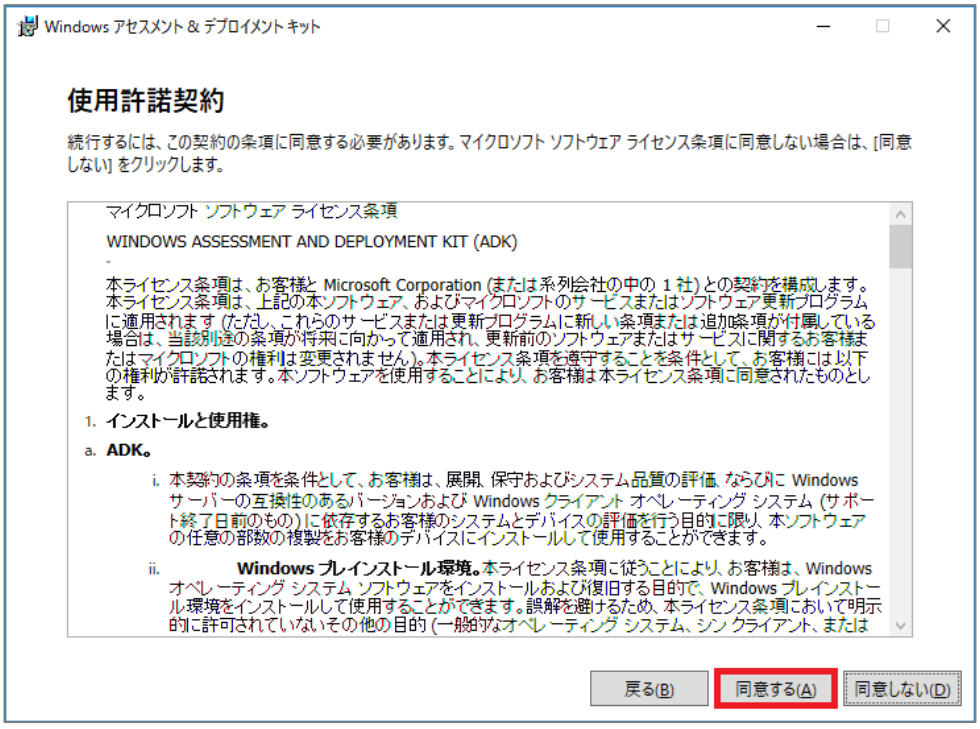


② [Windows キット プライバシー]

Windows キットの使用状況を匿名で Microsoft に送信するか設定します。このガイドでは **[はい]** のまま **[次へ]** をクリックします。(送信したくない場合は [いいえ] を選択してください。)

③ [使用許諾契約]

使用許諾を確認し、**[同意する]** をクリックします。

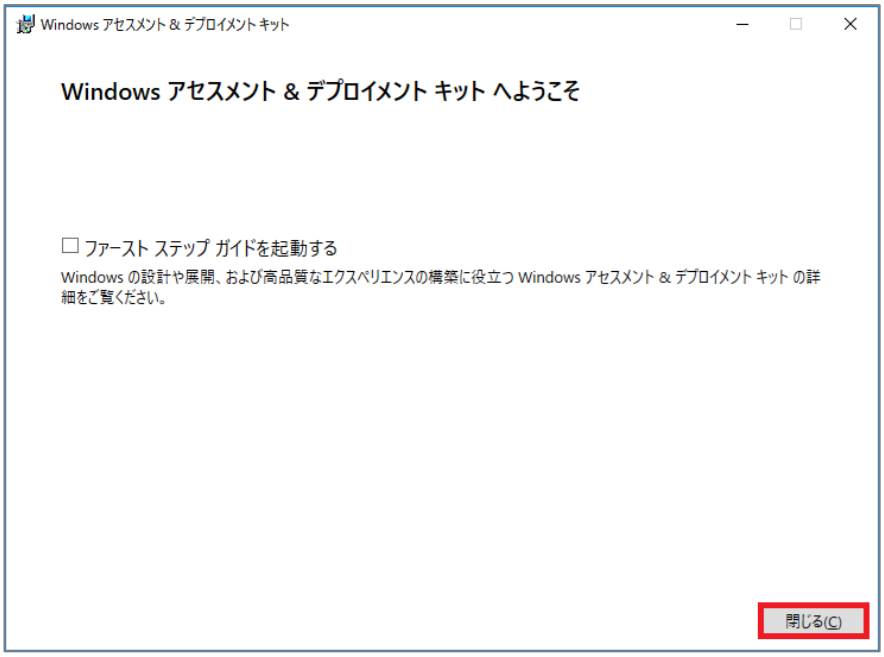


④ [インストールを行う機能を選択してください]

復旧メディアを作成する目的の場合は「Deployment Tools」のみを選択し、**[インストール]** をクリックします。

⑤ [Widows アセスメント & デプロイメント キット へようこそ]

インストール完了後、 **[閉じる]** をクリックします。



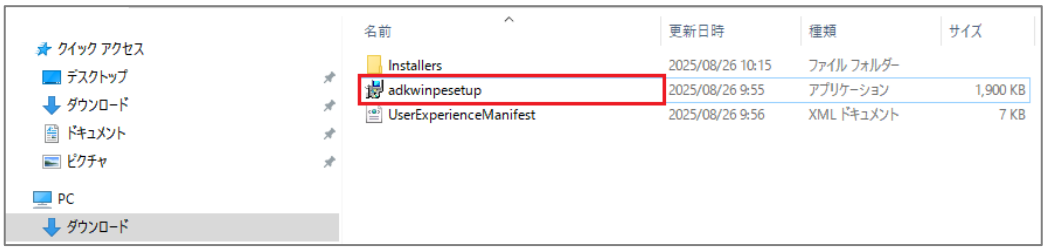
以上で、Windows ADK のインストールは完了です。

<ADK 用 Windows PE アドオンのインストール>

① [ADK 用 Windows PE アドオンのセットアッププログラムの実行]

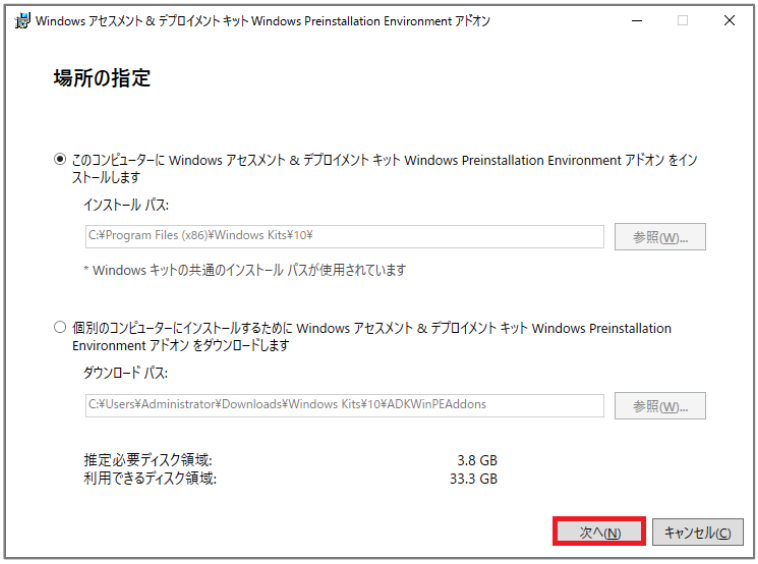
ダウンロード、もしくは配置した adkwinpesetup.exe をダブルクリックするなどして、実行します。

本シナリオでは、Windows Server 2022 用 ADK の Windows PE アドオン をインストールします。



② [場所の指定]

Windows PE アドオンのインストール先フォルダを指定し、**[次へ]** をクリックします。

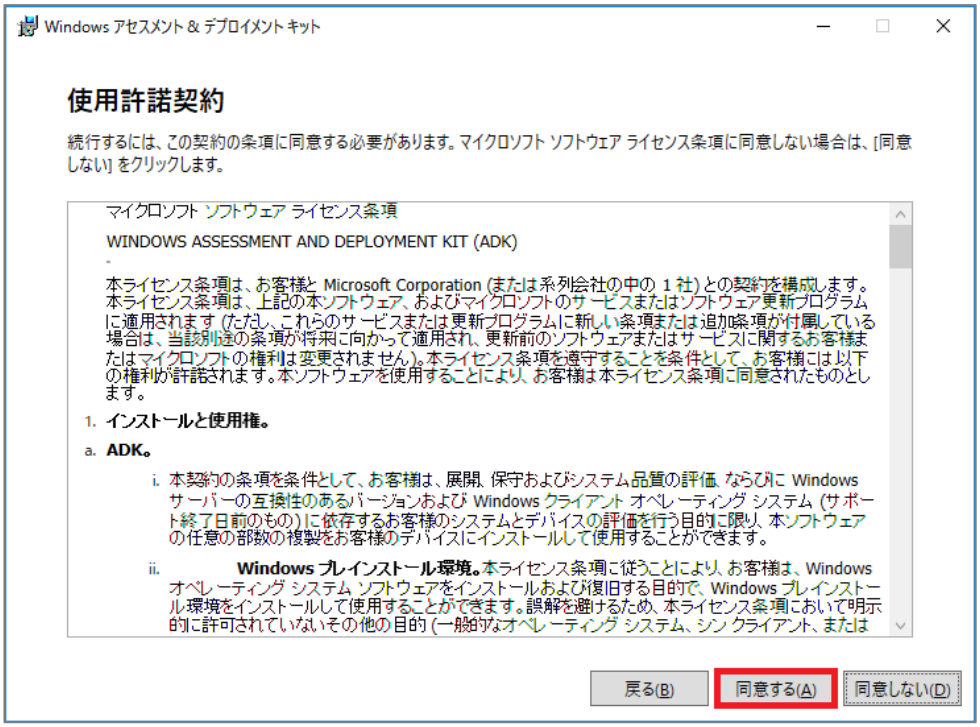


③ [Windows キット プライバシー]

Windows キットの分析情報を匿名で Microsoft に送信するか設定します。ここでは **[はい]** のまま **[次へ]** をクリックします。(送信したくない場合は [いいえ] を選択してください。)

④ [使用許諾契約]

使用許諾内容を確認し、**[同意する]** をクリックします。

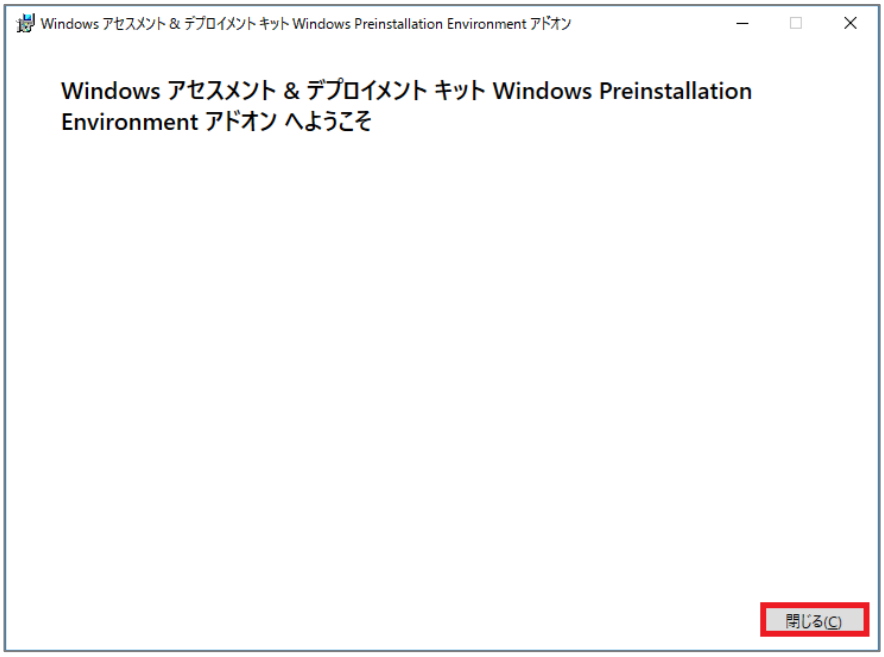


⑤ [インストールを行う機能を選択してください]

「Windows Preinstallation Environment (Windows PE)」を選択し、**[インストール]** をクリックします。

⑥ [Welcome to the Windows アセスメント & デプロイメントキット Windows Preinstallation Environment アドオン へようこそ]

インストール完了後、**[閉じる]** をクリックします。



以上で、Windows PE アドオンのインストールは完了です。

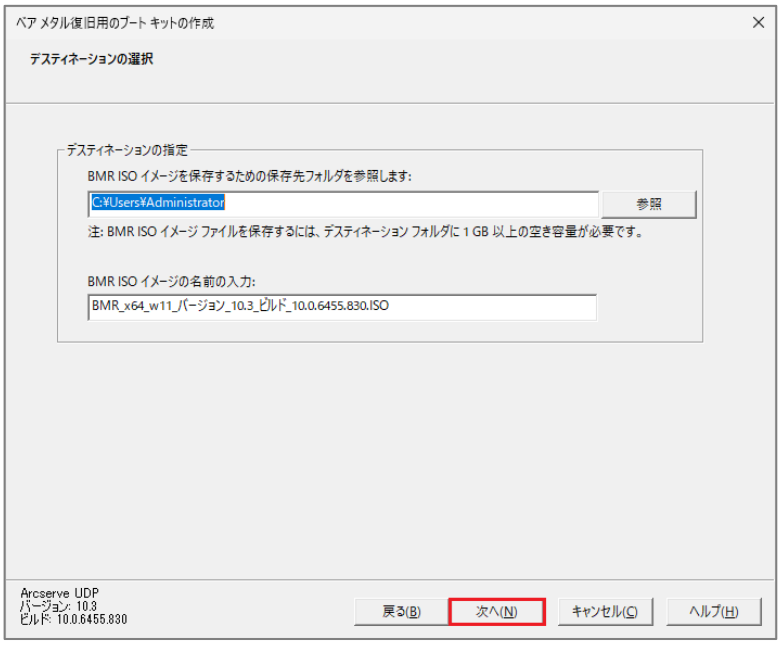
[ブートキット方式の選択]

[ブート可能 BMR ISO イメージの作成] または [ブート可能 BMR USB メモリ] を選択し、**[次へ]** をクリックします。(このガイドでは、[ブート可能 BMR ISO イメージの作成] を選択します。)

[デスティネーションの選択]

[デスティネーションの指定] で、BMR ISO イメージの保存先、及びファイル名を指定し、**[次へ]** をクリックします。Windows Server 2022 ADK ベースの復旧メディアは、x64 (64bit OS 用) プラットフォーム専用となります。

※ Windows 10 ベース、Windows 7 ベースの復旧メディアを作成する場合は、x86 (32bit OS 用)もメディアに 組み込むことができます。



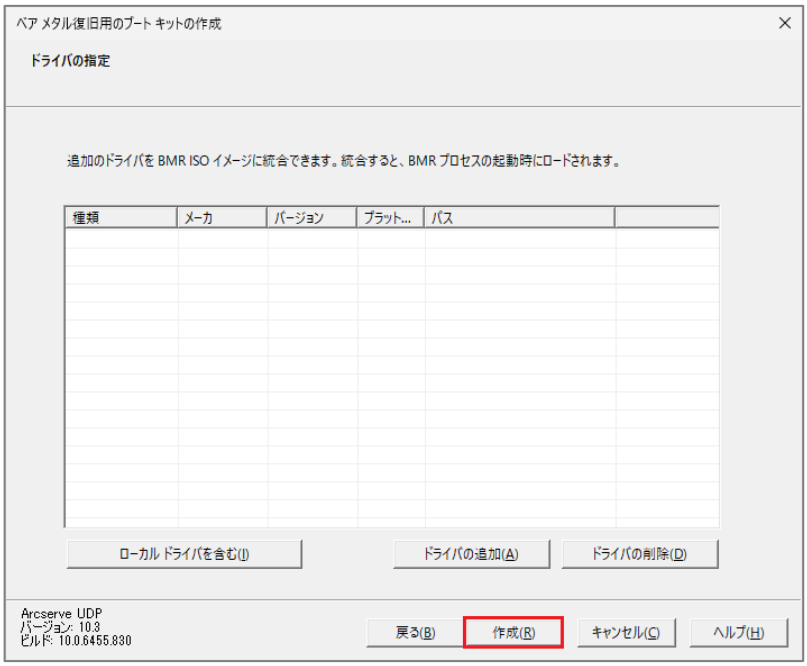
[言語の選択]

デフォルトでは、[日本語] のみが選択されます。このガイドでは、そのまま **[次へ]** をクリックします。

[ドライバの指定]

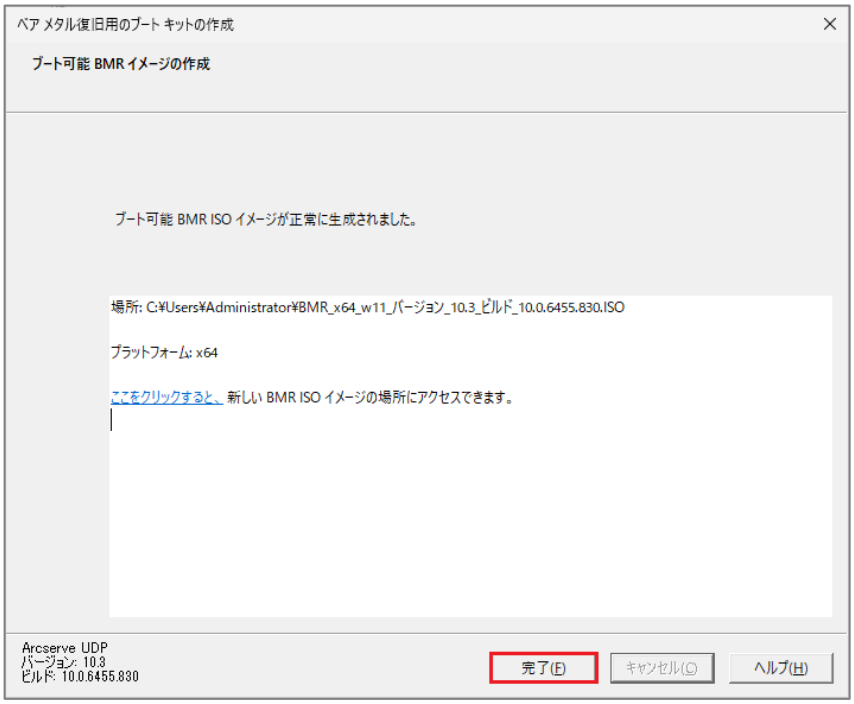
このガイドではドライバを組み込まず、復旧メディアを作成するため **[作成]** をクリックします。

バックアップデータがローカルディスクに保存されていて、ブートキットウィザードを起動している環境からドライバを組み込む場合は、[ローカルドライバを含む] をクリックします。共有フォルダにバックアップしている場合や、任意のドライバを組み込む場合は [ドライバの追加] をクリックします。ここでドライバを追加しなくても、復旧操作中にドライバを組み込むこともできます。



[ブート可能 BMR イメージの作成]

復旧用メディアの ISO イメージの作成完了を確認し、 **[完了]** をクリックします。



[BMR ISO イメージから復旧メディア を作成]

物理サーバのベアメタル復旧などには復旧メディアの作成が必要です。ライティング ソフトウェアなどを使い、BMR ISO イメージをブート可能メディアとして作成しておきます。

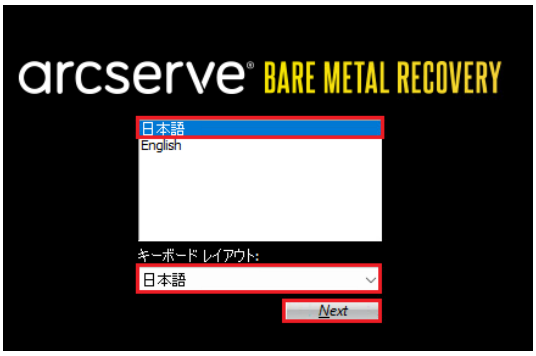
※　作成した復旧メディアには、UDP のビルド番号を記載し、大切に保管してください

5.2 ベアメタル復旧の実行

UDP のブートキット作成ウィザードを使って作成した復旧メディアを復旧対象のサーバにセットし、起動します。

(1) [キーボード レイアウト]の選択

操作画面の表示言語として **[日本語]**を選択し、キーボードレイアウトも自動的に日本語に変更されたことを確認し、**[Next]** をクリックします。



[ベア メタル復旧 (BMR) – BMR のバックアップの種類の選択]

[Arcserve Unified Data Protection のバックアップからリストアする] が選択されていることを確認し、**[次へ]** をクリックします。

重要！バックアップデータの保存場所によって以降の操作手順が異なります

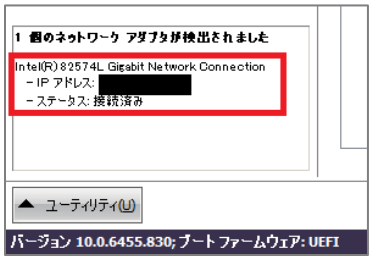
バックアップデータがローカル ディスクに保存されている環境の場合：

バックアップデータが自動検出されるため、以降の (4) から(7) の操作は不要となります。

適切なバックアップデータを選択の上、(8) 手順に進みます。

バックアップデータが共有フォルダや、UDP の復旧ポイントサーバに保存されている場合：

DHCP サーバから IP アドレスを取得しアクセスする場合は、以降の (5) から (6) の操作は不要です。取得した IP アドレスは画面左下に表示されます。**適切なバックアップデータを選択するため、(7) 手順に進みます。**



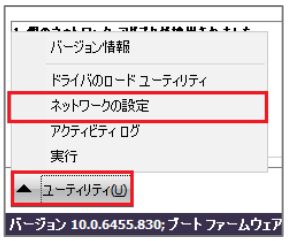
IP アドレスを指定してアクセスする場合は、このまま次の手順に進みます。

[ベア メタル復旧 (BMR) – バックアップの先の検出]

リモート NAS の共有フォルダまたは復旧ポイント サーバのバックアップ先を参照するため、先にネットワークの設定を行います。バックアップ先の検出が終了しない場合、 **[キャンセル]** をクリックして中止します。

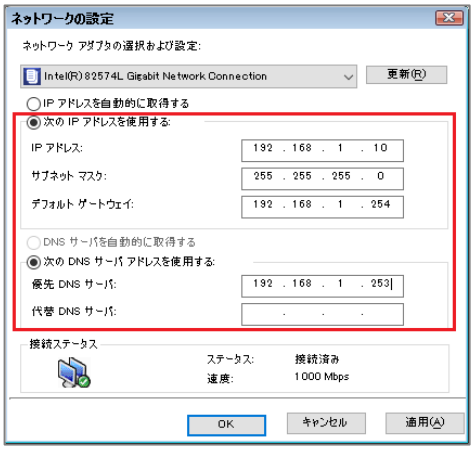
[ベア メタル復旧 (BMR) – ネットワーク設定]

画面左下の[ユーティリティ]メニューから、**[ネットワークの設定]** をクリックします。



[ネットワークの設定]

ネットワークの設定を行い、**[OK]** をクリックします。必要に応じて、デフォルトゲートウェイや DNS サーバの設定も行います。

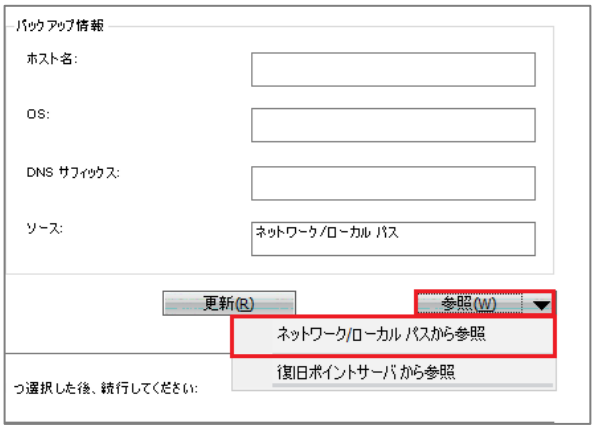


[ベア メタル復旧 (BMR) - 復旧ポイントを選択します]

共有フォルダ(手順 A)と復旧ポイントサーバ(手順 B)では復旧ポイントへのアクセス手順が異なります。

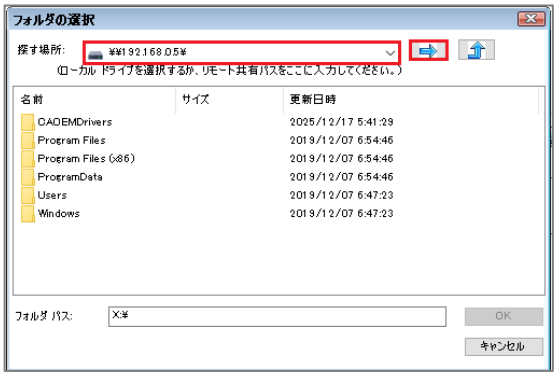
手順 A：共有フォルダのバックアップデータからベアメタル復旧する方法

① 共有フォルダのバックアップイメージからベアメタル復旧を行うには、[参照] – **[ネットワーク/ローカル パスから参照]** をクリックします。



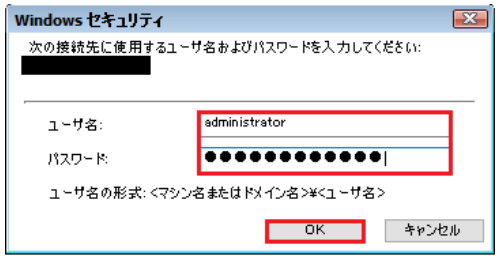
② [フォルダの選択]

バックアップ先の共有フォルダが存在するサーバ名を[探す場所] に入力し、➡アイコンをクリックします。



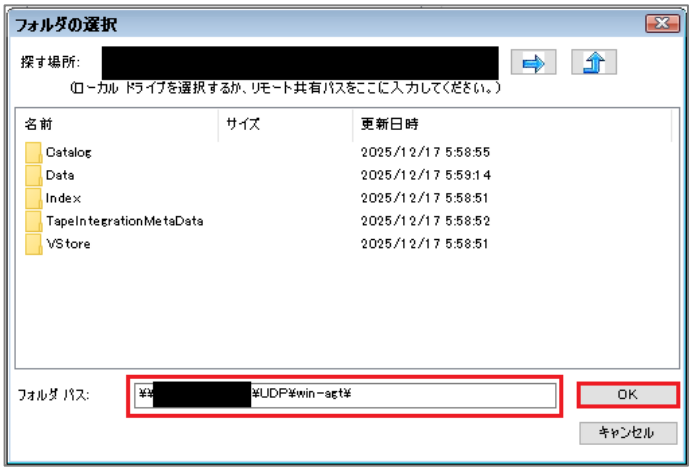
③ [Windows セキュリティ]

NAS・ファイルサーバに接続するためのアカウント情報を入力し**[OK]**をクリックします。



④ [フォルダの選択]

アクセス先の共有フォルダと、その共有フォルダ内に作成されている復旧対象サーバ名のフォルダを選択し、フォルダパスを確認し **[OK]**をクリックします。



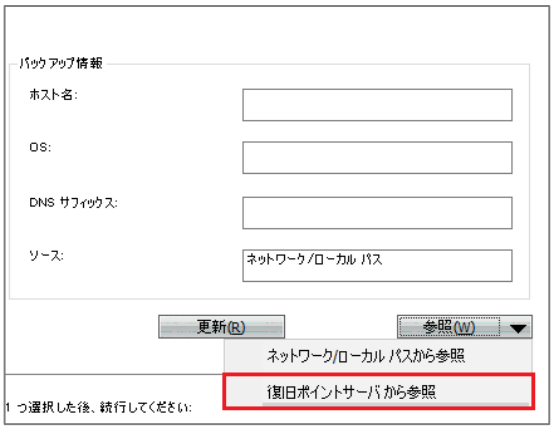
⑤ [ベア メタル復旧 (BMR)] - 復旧ポイントを選択し **[次へ]** をクリックします。

手順 B：復旧ポイントサーバのバックアップデータからベアメタル復旧する方法

復旧ポイントサーバの構築手順については、別紙の「Arcserve Unified Data Protection 10 環境構築ガイド – コンソール + 復旧ポイントサーバ – (フル コンポーネント) インストール 編」をご確認ください。

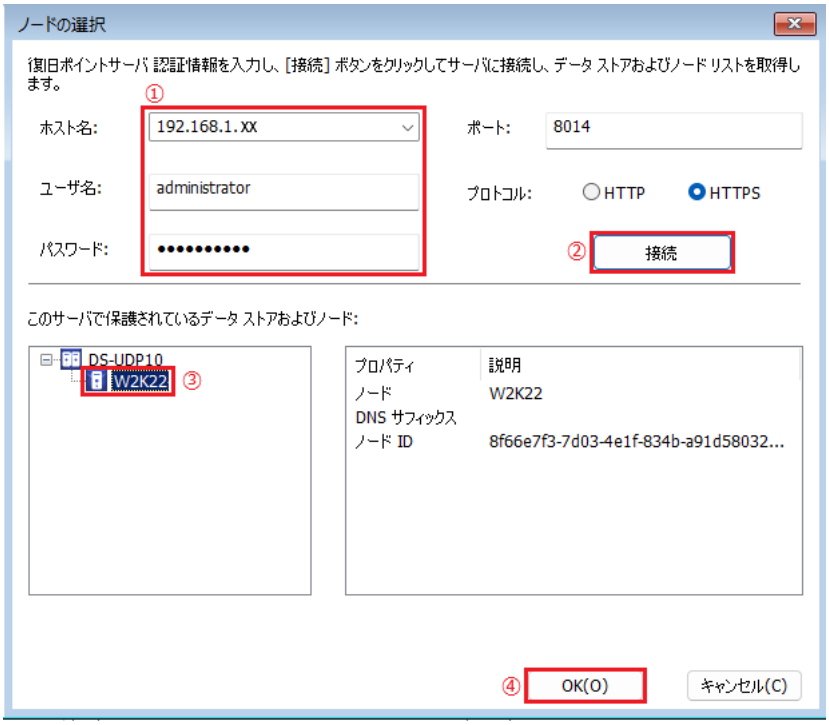
① [バックアップ情報]

ネットワークの設定後、[参照] – **[復旧ポイントサーバから参照]**をクリックします。



② [ノードの選択]

復旧ポイントサーバの名前解決ができない場合は、ホスト名に IP アドレスを入力します。ユーザ名とパスワードを入力後、**[接続]**をクリックしデータストア接続します。接続したデータストアを展開し対象ノードのホスト名を選択し**[OK]**をクリックします。



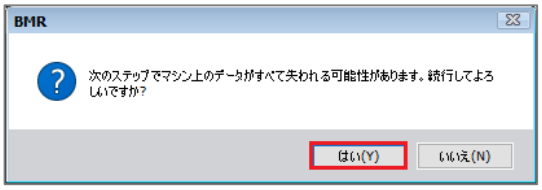
③　[復旧ポイントの確認]

ソースが復旧ポイントサーバとなり、復旧ポイントを確認したら **[次へ]** をクリックします。

[ベア メタル復旧 (BMR) - 復旧モードの選択]

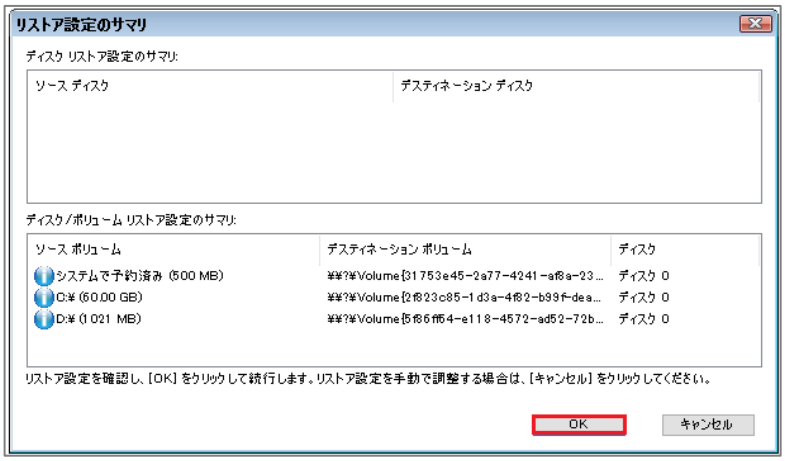
復旧モードを選択し、**[次へ]** をクリックします。本ガイドではバックアップ時と同一のボリューム数とパーティションサイズで復旧させるため [高速モード] を選択しています。復旧先サーバのボリューム数やディスクサイズを変更し復旧する場合は [拡張モード] を選択し、リストア先のボリュームやサイズを手動で変更します。

[はい] をクリックすると、高速モードの場合はバックアップ時点の情報を基に、拡張モードの場合は手動設定した構成とサイズで、環境内のパーティションを再作成します。もう一度パーティションと割り当て設定を確認する場合は [いいえ]をクリックして設定を再度確認することが出来ます。



[リストア設定のサマリ]

復旧対象のソースボリュームと、復旧先のディスク番号を確認し、**[OK]**をクリックします。

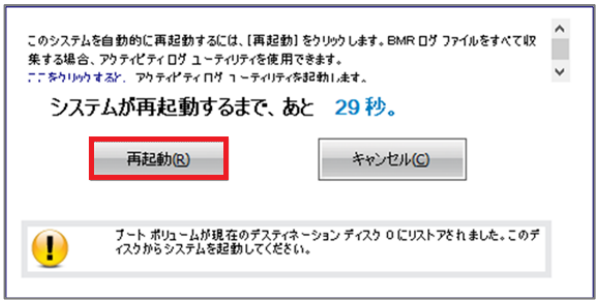


※ [リストア設定のサマリ] 画面の下部にある「デスティネーション ボリューム」列に表示されるドライブ文字は、Windows プレインストール環境（WinPE）から自動的に生成されているため、「ソース ボリューム」列に表示されるドライブ文字とは異なる場合があります。ドライブ文字が異なっている場合でも、データは問題なく適切なボリュームにリストアされます。

※ [OK] をクリックするとベアメタル復旧が開始しますので、設定が適切でない場合には [キャンセル] をクリックし、設定をやり直してください。

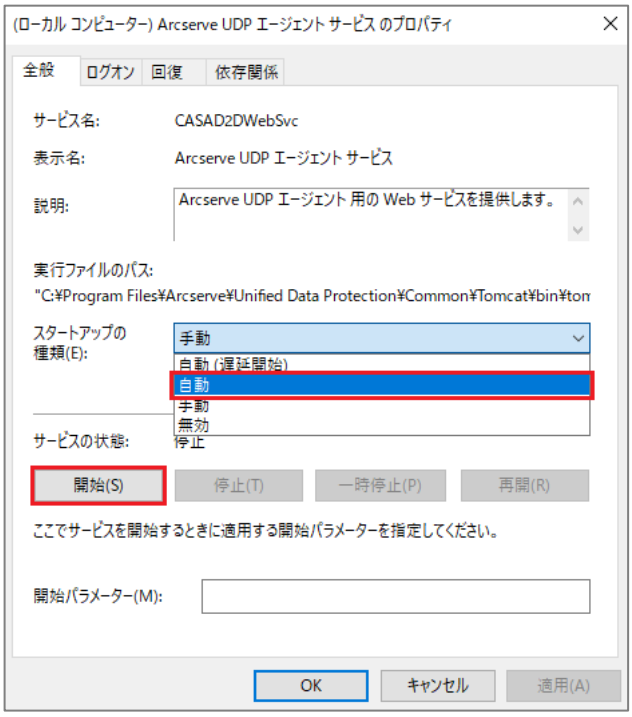
[ベア メタル復旧 (BMR) – リストア プロセスの開始]

全ての復旧が完了するとシステムは自動的に再起動されます。再起動後、サーバにログインしシステムが正常に復旧していることを確認します。



※　高速モードでベアメタル復旧が完了した場合、デフォルトでは UDP エージェントサービスは自動起動しません。これは、サーバやアプリケーションの動作確認中に意図しない、スケジュールバックアップが動作することを防ぐためです。サーバやアプリケーション動作を確認後、Windows OS のサービス設定から「Arcserve UDP エージェントサービス」のプロパティで [スタートアップの種類] の設定を変更しバックアップ運用を再開してください。

- スタートアップの種類： [手動] → [自動] に変更
- サービスの状態：[開始]をクリック



6. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカタログや FAQ などの製品情報や、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

6.1 製品情報および FAQ はこちら

Arcserve シリーズ ポータルサイト
https://www.arcserve.com/ja/

動作要件
https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-X-Software-Compatibility-Matrix?language=ja

注意 / 制限事項
https://support.arcserve.com/s/article/2023012301?language=ja

製品ドキュメント
https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-0-Documentation?language=ja

サポート / FAQ
https://support.arcserve.com/s/article/205002865?language=ja

Arcserve Unified Data Protection ダウンロード情報
https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-10-0-Download-Link?language=ja

6.2 トレーニング情報

無償トレーニング
半日で機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。どなた様でも参加いただけますので、この機会にご活用ください。
(注：競業他社の方はお断りしております。)
https://www.arcserve.com/ja/free-hands-on